

## 「海学び舎」あらかると啓発事業

### 報告書

平成28年12月

「海学び舎」あらかると啓発事業実行委員会

#### 「海学び舎」あらかると啓発事業実行委員会 委員会名簿

		（順不動・敬称略）
委員長	（公社）大阪港振興協会事務局長	有田正文
副委員長	（一社）神戸港振興協会専務理事	宮本一郎
委員	近畿旅客船協会 事務局長	青山剛志
委員	神戸旅客船協会専務理事	山西哲司
委員	近畿内航船員対策協議会事務局長	香川幹夫
委員	大阪市港湾局営業推進室開発調整課長	上溝憲郎
委員	神戸市みなと総局みなと振興部振興課長	横山和人
委員	大阪市港区役所教育担当課長	花立都世司
委員	ラジオ関西（株）編成営業部長	桜井慎介
委員	（公財）関西交通経済研究センター常務理事	土井眞三
オブザーバー	近畿運輸局海事振興部旅客課長	辻野晃
オブザーバー	神戸運輸監理部海事振興部旅客課長	岡本英明
事務局	（公財）関西交通経済研究センター	

#### 「海学び舎」あらかると啓発事業実行委員会 神戸分科会

		（順不動・敬称略）
分科会長	（一社）神戸港振興協会専務理事	宮本一郎
委員	神戸旅客船協会専務理事	山西哲司
委員	神戸市みなと総局みなと振興部振興課長	横山和人
委員	南あわじ市教育委員会事務局 学校教育課長	廣地由幸
委員	ラジオ関西（株）編成営業局次長	青木達也
委員	（株）神戸新聞事業社 営業3部	松本敦法
委員	神戸ベイクルーズ（株）営業部	平嶋隆一
委員	神戸運輸監理部海事振興部旅客課長	岡本英明
委員	（公財）関西交通経済研究センター常務理事	土井眞三

#### 「海学び舎」あらかると啓発事業実行委員会 大阪分科会

		（順不動・敬称略）
分科会長	（公社）大阪港振興協会事務局長	有田正文
委員	近畿旅客船協会事務局長	青山剛志
委員	近畿内航船員対策協議会事務局長	香川幹夫
委員	大阪市港湾局営業推進室開発調整課係長	金光尚美
委員	大阪市港区役所教育担当課長	花立都世司
委員	ラジオ関西（株）編成営業局次長	青木達也
委員	（株）神戸新聞事業社 営業3部	松本敦法
委員	大阪水上バス（株）取締役	大江幸弘
委員	近畿運輸局海事振興部旅客課長	辻野晃
委員	（公財）関西交通経済研究センター常務理事	土井眞三

## 目 次

I. 神戸市、南あわじ市小学生の海に親しむ交流学習会	
1. 実施概要	1
2. 参加小学校及び参加者数	4
3. 神戸港実施状況写真	5
4. アンケート結果	9
5. 交流学習会	12
6. 準備資料	17
①募集チラシ	
②参加者・スタッフ着用帽子	
③当日のしおり（プログラム）	
④移動ルート	
⑤ロイヤルプリンセス号船内配席図	
⑥神戸海洋博物館ホール内配席図	
⑦神戸海洋博物館見学時間問題集	
⑧交流学習会〇×クイズ問題（解答）	
⑨スタッフ役割分担	
II. 海・船のお話と海の環境学習や体験型見学会	
1. 実施概要	25
2. 参加小学校及び参加者数	28
3. 大阪港実施状況写真	29
4. アンケート結果	33
5. 講演録	36
6. 準備資料	53
①募集チラシ	
②参加者スタッフ着用帽子	
③当日のしおり（プログラム）	
④天保山船客ターミナル座席図	
⑤海遊館ホール座席図	
⑥サンタマリア見学要領	
⑦サンタマリア見学順路	
⑧サンタマリア探検問題（5年生用・6年生用）	
⑨スタッフ役割分担	
III. 実行委員会等開催状況	63
①第1回実行委員会	66
②第2回実行委員会	68
③第1回神戸分科会	69
④第2回神戸分科会	70
⑤第1回大阪分科会	71
⑥第2回大阪分科会	72
IV. マスメディア記事	73
V. 企画書	76
VI. 絵手紙（別紙）	

# I. 海と日本プロジェクト

## 神戸市・南あわじ市小学生の海に親しむ交流学習会

### 1. 実施概要

海洋国日本の国づくりや街おこしを担う、次世代の小学生の皆さんに、海の大切さと海の魅力を知ってもらい、海の恩恵に感謝し、併せて、広く海洋についての理解と関心を深めてもらうことを目的に、神戸市小学生と南あわじ市小学生を対象に、海から神戸港を視察し、また、神戸海洋博物館において、神戸の海、船、港の過去、現在、未来を体験学習する「神戸市・南あわじ市小学生の海に親しむ交流学習会」を開催した。

- ・実施場所 神戸港中突堤及び神戸港内
- ・実施日時 平成28年7月1日(金) 08:40~16:00
- ・参加者 109名(スタッフを除く)
  - 神戸市立大池小学校 5年生 52名
  - 南あわじ市立倭文小学校 5年生 17名
  - 南あわじ市立湊小学校 5年生 8名
  - 南あわじ市立市小学校 5年生 31名
  - 南あわじ市立三原志知小学校 5年生 1名

#### (1) 神戸港内クルーズの実施(約90分)

##### ① 使用船舶

神戸ベイクルーズ「ロイヤルプリンセス」  
総トン数：414G/T(トン)  
旅客定員：500名



##### ② コース

神戸中突堤発→ポートアイランド→六甲アイランド  
→神戸空港沖→神戸中突堤着

##### ③ クルーズの概要

- ・最初に中突堤を出航し、人工島のポートアイランドと神戸市街を結ぶ神戸大橋の下をくぐり東進し、神戸港内の定期観光クルーズでは見ることが出来ないコースを航行した。
- ・ポートアイランドでは海外への輸出を待つ建設重機や鉄道車両、膨大な台数の自動車が埠頭に整列する姿に児童も目を丸くして見入っていた。
- ・穀物埠頭や青果埠頭では、普段自分たちが口にしている身近な食物がここから輸入しているとの話に、児童も熱心に耳を傾けていた。
- ・その後人工島の六甲アイランドを巡り、ガントリークレーンが林立するコンテナ埠頭で荷役している大型コンテナ船に近づき、迫力ある荷役風景を間近に見ることが出来た。

- ・船は神戸空港の北側を通り神戸港第一関門の赤灯台と白灯台の間を通過し、川崎重工株式会社神戸工場のドックに海側から近づき、建造中の潜水艦を直ぐ近くから望むことが出来た。特別に低速でドックに接近することが出来た今回のこのクルーズでは、誰もがこのシーンに最も感動したようで、生徒のみならず、教職員や関係者もが身を乗り出すようにして、生で見る潜水艦に目を輝かせていた。
- ・航行中は、神戸港内を忙しく行き来する、「内航貨物船」、「タグボート」、「はしけ」、「海上保安庁大型巡視船」、「海洋調査船」、「長距離大型フェリー」、「レストラン船」など、海で働く数多くの船を目の当たりにし、それぞれの役割や大きさなどを学習することが出来た。
- ・航行中は森田ガイドの解説に耳を傾けながら、普段とは異なる海からの神戸の街並みや海を行き交う様々な船に、参加者は頷いたり驚いたりしながら、海を知り、海からの恩恵を感じることが出来る爽やかな90分間を、神戸港クルーズを通じて学習することが出来た。

#### (2) 神戸海洋博物館とカワサキワールドの見学

- ① 午後からは、学校の異なる児童間で共に考え、共に学び、そして、神戸港の役割と歴史、更に広く海について親しんでもらうため、交流を目的に5校混合で1班5人編成の22班に班分けを行い、神戸海洋博物館とカワサキワールドの見学を行った。



- ② 神戸海洋博物館は神戸港をテーマにした海運、海洋、海の歴史の総合的な学習の場であり、カワサキワールドは造船を初めとした神戸の総合メーカー、川崎重工工業株式会社の企業ミュージアムであって、展示内容により関心を持ってもらうことを目的に、班単位で展示物をテーマにした館内クイズラリーを行った。各班とも難問に悪戦苦闘しつつも、仲間と協力して相談しながら、ヒントの書かれた展示案内図などを探して、見て、解答を見つけていた。

#### (3) 交流学習会(学校紹介、クイズ大会)

- ① 学校紹介では、今回参加5校の規模や環境などの特徴を中心に、各校代表者が紹介を行いました。5年生が一人しかいない学校から、52名の学校まで各校の参加者数は様々でしたが、それぞれ特徴のある、個性溢れる発表の仕方でも、心温まる楽しい時間を過ごすことが出来た。
- ② その後の〇×クイズ大会では、午前中の神戸港クルーズ、午後の博物館などの見学を通じて、「見て」、「聞いて」、「触れて」、「学んだ」中からのクイズに、班の仲間と答えを考えてもらいました。クイズの内容は、南あわじ市と神戸市の児童が共に考えることが出来るよう、淡路島や神戸市にまつわるクイズを織り交ぜたものであったが、中には班内で意見の分かれる問題もあり、初めて会った仲間でありながらも、制限時間内に答えをまとめなければならぬスリルと交流の過程



を、皆は心いっぱい楽しんでた。

③ 当初 22 班で開始したクイズは、15 問実施時点で 2 班が勝ち残りましたが、勝負がつかず、最後は班代表者によるジャンケンで勝負を決しました。勝ち残った班には、クイズの解説をして頂きました神戸港振興協会の森田参事より記念品の贈呈を行い、参加者全員で優勝者を拍手で称え、クイズ大会を終えた。



(4) 海学び舎絵手紙の作成

① 参加者から、「海学び舎絵手紙」(はがきサイズ)を当センター宛てに送付していただくようお願いしたところ、参加小学校単位でとりまとめ下記枚数の送付があった。

- ・絵手紙総数 159 枚
- ・内訳 (別添絵手紙参照)
  - 神戸海洋博物館 30 枚
  - ロイヤルプリンセス及び神戸港 129 枚

② 絵手紙展示

神戸港中突堤中央ターミナル「かもめりあ」1 階船客待合所に平成 28 年 1 月 7 日より展示中。

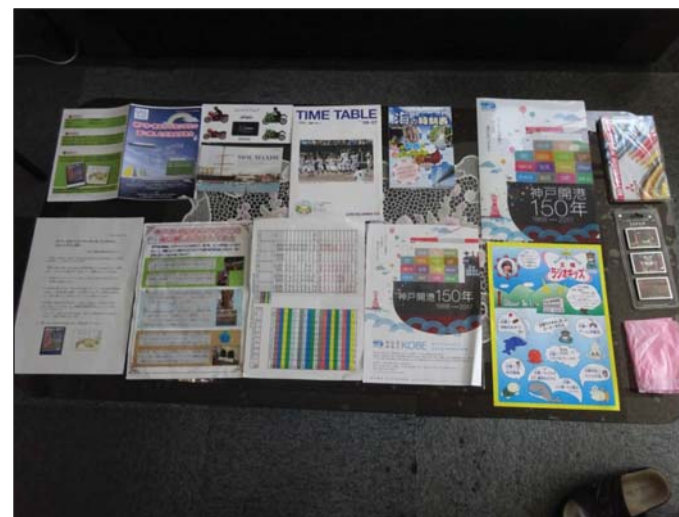


2. 参加小学校及び参加者数

平成28年度「海学び舎」あらかると啓発事業 参加小学校一覧

神戸関係										
	学校名	校長名	〒	住所	参加学年	参加児童数	引率教員数	参加者合計	備考	
1	南あわじ市立倭文小学校	坂口 祐希	656-0153	南あわじ市倭文庄田250	5年	17	2	19		
2	南あわじ市立湊小学校	作田 一徳	656-0331	南あわじ市湊里1502-1	5年	8	2	10		
3	南あわじ市立市小学校	安田 保富	656-0478	南あわじ市市福永345-1	5年	31	3	34		
4	南あわじ市立三原志知小学校	大谷 日出人	656-0484	南あわじ市志知佐礼尾9-1	5年	1	1	2		
5	神戸市立大池志知小学校	中本 鋼志	651-1201	神戸市北区西大池2-24-1	5年	52	4	56		
合計					計	109	12	121		

(配付資料)





### 3. 神戸市・南あわじ市小学生の海に親しむ交流学習会実施状況写真

平成 28 年 7 月 1 日（金）実施

【ロイヤルプリンセスによる神戸港周遊】

集合写真



船内の状況



オリエンテーション



船尾からの神戸港



船尾からの神戸の街

【神戸海洋博物館ホール】



オリエンテーション



班分けの状況



1階展示室



1階展示室



3階展示室



3階展示室



1階 カワサキワールド



1階 カワサキワールド

【学校紹介】



大池小学校



倭文小学校



市 小学校



三原志知小学校



湊 小学校

【〇×クイズ大会】



第1問



第2問



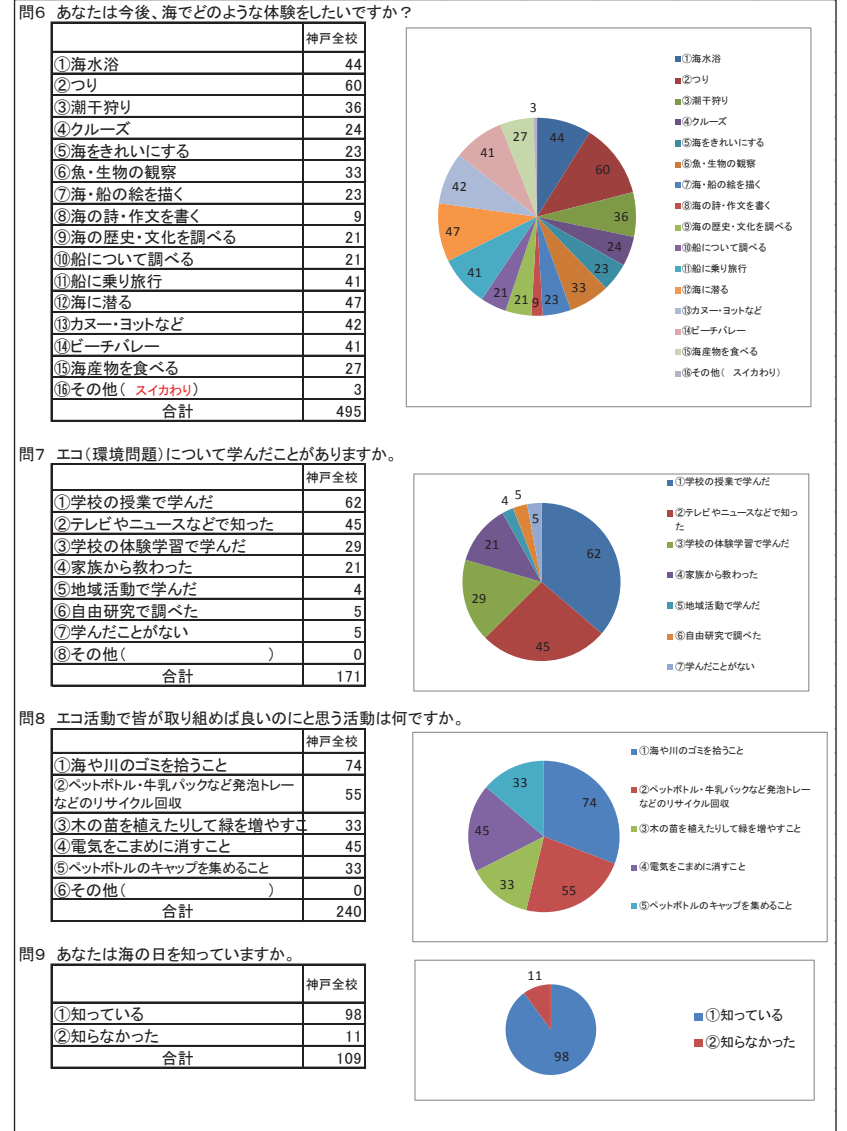
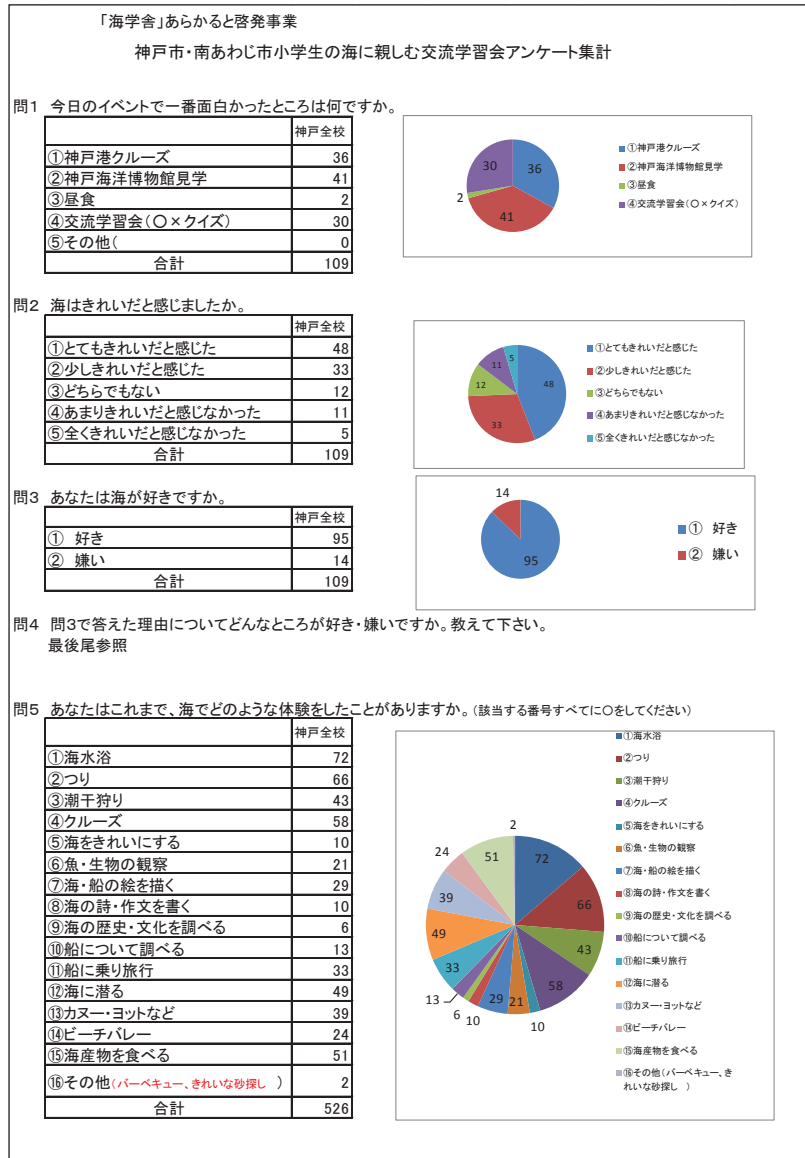
第5問



優勝グループ



## 4. アンケート結果



問4 問3で答えた理由についてどんなところが好き・嫌いですか。教えてください。

好き	子供のときによく釣りに行ったり、おっちゃんといっしょに行って好きになりました。
	魚釣りができるから
	夏に海に入ると気持ちいいから
	砂遊びし放題だから
	海水浴ができる、泳げるから
	海を見ているとぼんやりするから
	青々とした色がきれいで、気持ちがカラッと晴れるから
	海は夕日になるときれいな景色が見れるから
	広々としていて、心が広がる気がする。自由が感じられる
	冷たくてきれいから
	海の向こうに明石の街が見えること
	海はきれいな魚がいっぱいいて、いろんな種類が見れるから
	天気によって色の見え方に違いがあるところ
	海の色が好き
	船とかに乗れるから
	景色がよく見えてきれいから
	飛び込みができる
	魚を食べるのは海のおかげだから
	海は青くて、日光が当たるとキラキラ輝いてきれいだから
	海には魚や貝殻などいろんな生き物がいるから
	海は、小さな魚や面白い魚がいたりするから
	涼しいから
	風が気持ちいいから
	波が気持ちいいから
	海の波が好き
	潮風がきれい、波もきれい、美しい
	神戸港は船などがあり、海の恵みがたくさんあるから
	いろいろ歴史があると気づいたから
	海が無いといろいろなことが不便になったりする
	波乗りもできる
	海をいろんなものが渡ってくるから
	ジェットスキーで遊べるところがいい
	きれいで、夕日で光の階段みたいのが見たいから
嫌い	ゴミがあると泳ぎにくいから
	口に水が入るとしょっぱい
	泳げないし、海は深いから溺れてしまう
	深いし、あまりきれいではなかった。たまにゴミなどが浮かんでいるから
	こわいから
	前に海に行って何かが刺さって痛かったから
	海に入って出たあと、ヒリヒリするから
船酔いする	
海はクラゲがいたりするから	
ゴミがあって汚い	

## 5. 交流学習会（会場：ロイヤルプリンセス船内及び神戸海洋博物館ホール）

### (1) オリエンテーション

司会：ラジオ関西（株）パーソナリティール 木村 三恵

### (2) 開会の挨拶

（一社）神戸港振興協会 専務理事 宮本 一郎

### (3) 学校紹介（発表順）

- ・神戸市立 大池小学校 5年生
- ・南あわじ市立 倭文小学校 5年生
- ・南あわじ市立 三原志知小学校 5年生
- ・南あわじ市立 市小学校 5年生
- ・南あわじ市立 湊小学校 5年生

### (4) O×クイズ大会

### (5) 閉会の挨拶

（公財）関西交通経済研究センター理事長 岩崎 勉



## 【開会の挨拶】

(一社) 神戸港振興協会  
専務理事 宮本 一郎 氏



皆さん、こんにちは。神戸港振興協会の宮本です。  
今日は、神戸市と南あわじ市の小学校5校から、5年生109人の皆さんに神戸港に集まって頂きました。  
まずは、船から、ポートアイランドや六甲アイランドなど様々な施設を観察していただけます。そして、神戸海洋博物館、カワサキワールドの見学、交流クイズ大会と楽しい企画を用意しております。  
日本は、四方を海に囲まれています、その海はいろいろな面を持っています。たとえば、神戸の場合で見ると、今皆がいるこの場所は、様々な物資を輸送する貿易港としての顔を持っています。  
また、須磨や舞子に行けばそこは海水浴場として楽しめる場所になりますし、垂水に行けばそこは漁港としての役割を果たしています。さらに違った角度から見ると、海は気温や気候に大きな影響を与えます。このように私たちの海はいろいろなかたちで生活に大きく関わっています。  
今日は、たくさんのお話を学ぶことができると思いますが、何か一つでもいいから覚えて帰って、夕食のときでもご家族の方にお話をしてもらえればと思います。  
それでは、今日一日楽しんで勉強をしてください。

## 【学校紹介】(概要) (発表順)

### 1. 神戸市立大池小学校 (5年生)

- (1) 学校位置  
大池小学校の場所は、神戸市の北区の六甲山の北側
- (2) 生徒数  
全校生 272 人  
5年生 52 人 (元気いっぱいの男子 27 人ともっと元気  
いっぱいの女子 25 人)
- (3) 目標 「大きく、いきいきとけじめ持って」
- (4) 特徴  
①大池小学校の周りにはたくさんの自然がある。春には桜が咲き、6月にはモリアオガエルの産卵が見られる。冬には雪合戦ができる。  
②大池小学校は「おおいけろけろ」というマスコットキャラクターがいる。



### 2. 南あわじ市立倭文小学校 (5年生)

- (1) 学校位置 南あわじ市内
- (2) 生徒数  
全校生 87 人 (男子 37 人、女子 50 人)  
5年生 17 人
- (3) 特徴  
①「しとおり」を漢字で書くと「倭文」と書く。よく「わぶん」と間違われる。今日は、「しとおり」の呼び方をぜひ覚えて下さい  
②倭文には、千年以上前から伝わる倭文(しつおり)という織物があり、1年生から6年生まで全員が織る体験をする。  
③倭文の周りには田畑がいっぱいで、自然に恵まれている。
- (4) 参加した感想  
①普段は、海を見ることがないので、今日は、目の前の海と大きな船に乗り楽しかった。  
②海に落ちないか心配していたけど、落ちなくてよかった。  
今日の活動はとっても楽しかった。お弁当はおいしかった。



### 3. 南あわじ市立 市小学校 (5年生)

- (1) 学校位置 南あわじ市内
- (2) 生徒数  
全校生 206 人  
5年生 34 人 (男子 20 人、女子 14 人)
- (3) 努力目標  
「やる気、勇気、根気」。  
クラスの皆は仲良しで、皆でよく遊んでいる。
- (4) 特徴  
①周りが自然に囲まれている。  
②レタス、玉ねぎ、キャベツなどいろいろな農業が行われている。  
③南あわじ市は、人形浄瑠璃の発祥の地であり、私たちは、郷土文化部で浄瑠璃を語っている。



### 4. 南あわじ市立 三原志知小学校 (5年生)

- (1) 学校位置  
淡路島の三原平野の西にあり、近くには、吉備国際大学のキャンパスや高速道路の西淡三原インターチェンジがある。
- (2) 生徒数 全校生 26 人  
5年生 1 人
- (3) 特徴・自慢  
①普段は、6年生と一緒に過ごしています。



- ②神戸までは車で約 1 時間で着き、とても便利のよいところ。
- ③自慢できることは、グループ名「和太鼓クラブ志童」での活動。3 年前から全校生で取り組んでる。
- ④今年の 2 月 18 日には、NHK の「学校探訪 がっこたん」で放送された。そこでテレビ出演し、とっても嬉しかった。
- ⑤10 月の終わりには自然学校に行きます。市小学校の皆さんと一緒に行くので、楽しみにしている。

## 5. 南あわじ市立 湊小学校 (5 年生)

### (1) 生徒数

全校生 58 人 (男子 33 人、女子 25 人)  
5 年生 8 人

### (2) お勧めしたいこと

#### ①お勧めランキング第3位

- ・「縦割り班」で行動すること。例えば、月に 1 回、「触れ合い遊び」がある。触れ合い遊びとは、縦割り班に分かれて楽しく遊ぶこと。
- ・他にも、「仲良し清掃」がある。仲良し清掃は、触れ合い遊びのように縦割り班に分かれて、運動場などの草引きをさせる。みんなで協力して、学校をピカピカにしている。

#### ②お勧めランキング第2位

- ・元気いっぱいの学校である。
  - (一つ目) 元気いっぱいで、明るく挨拶ができる。
  - (二つ目) ほとんど毎日元気で遊んでいる。晴れの日を外で、雨の日は体育館で遊んでいる。

#### ③お勧めランキング第1位

- ・自然が豊かなことである。
  - (一つ目) 海である。夕方には、廊下の窓からきれいな夕日が見られる。その夕日が海に反射して夕日色に輝いている。
  - (二つ目) 山である。季節ごとにみられる山は鮮やか。特に秋は紅葉がきれいである。

#### ④その他のお勧めしたいこと

「みなとっ子」という言葉を使っの「あ・い・う・え・お作文」を紹介

- 「み」 みんなで協力し、
- 「な」 何事も積極的に
- 「と」 友達との関係と絆を
- 「つ」 つくる みなとっ子の
- 「子」 子供たち



## 【閉会の挨拶】

(公財) 関西交通経済研究センター  
理事長 岩崎 勉



皆様、大変お疲れ様でした。ただ今、ご紹介いただきました(公財) 関西交通経済研究センターの理事長をしています岩崎と申します。どうぞよろしくお願い致します。

本日は、あっという間に時間がたちましたが、楽しかったですか。今日は、南あわじ市と神戸市の 5 つの小学生の皆様が、校外学習ということでご参加いただきました。

私が一番驚いたことは、各小学校の学校紹介の時間です。それぞれの小学校の 5 年生の皆様がしっかりと学校紹介をされたことに大変感心しました。

実は、このイベントは昨年からはまりました。昨年は、「海の日」が祝日になって 20 回目であり、それを契機に、海に親しむイベントを全国的にやっていきましょうということで、今年は、2 年目のイベントとして開催させていただきました。

今年の「海の日」の祝日は何日かご存知ですか？

7 月 18 日(月) ですね、昔は、7 月 20 日その日が「海の日」でしたが、平成 15 年度から 3 日間連続してお休みにしましょうということで、「海の日」が 7 月の第 3 月曜日に変わり、今年は 7 月 18 日の第 3 月曜日が「海の日」というわけです。ということで、7 月にこのようなイベントを実行委員会の皆さんと一緒に考えて、今日、7 月 1 日に神戸港、7 月 7 日に大阪港で開催します。皆様には、海の面白さ、海の恵み、海の魅力などを今日の学習会を通じて、より身近に感じ取っていただけたら、大変ありがたいと思います。

そして、今日の交流学習会を通じてお友達の輪が広がったと思いますので、これからもその絆を持ち続けていただけたらありがたいと思います。

最後になりますが、実行委員会の神戸港振興協会、神戸市みなと総局、神戸旅客船協会、神戸運輸監理部の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

また、このイベントにご協力いただきました、神戸市教育委員会様、南あわじ市教育委員会様、そして進行役をしていただきましたラジ関西の皆様、本当にありがとうございました。

そして、児童を引率していただきました各小学校の先生方ありがとうございました。

また、来年もこのようなイベントを企画したいと思っておりますが、最後に 3 つお願いがあります。一つ目は、今日お配りしました帽子の前に「日本財団 海と日本 PROJECT」と書いてあります。そして日本財団のマークがついていますが、このマークを街中で見かけられましたら、今日の交流学習会を支援していただいている日本財団のことを思い出してください。

二つ目は、絵手紙を書いていただきたいことです。今日の面白かったことや興味のあったことを絵日記的に書いて送ってください。待っています。

三つ目は、ラジ関西の番組で今日のことが放送されますので、是非、聞きましょね。これから夏休みに入りますが、ケガなどしないように元気に過ごしてください。

そして、家に帰られたら、「お父さん」「お母さん」をはじめ家族の方に今日のお話をしていただきたいと思います。今日は、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。



## 6. 準備資料

### ① 募集チラシ

(表面)

(裏面)

### ② 参加者、スタッフ着用帽子

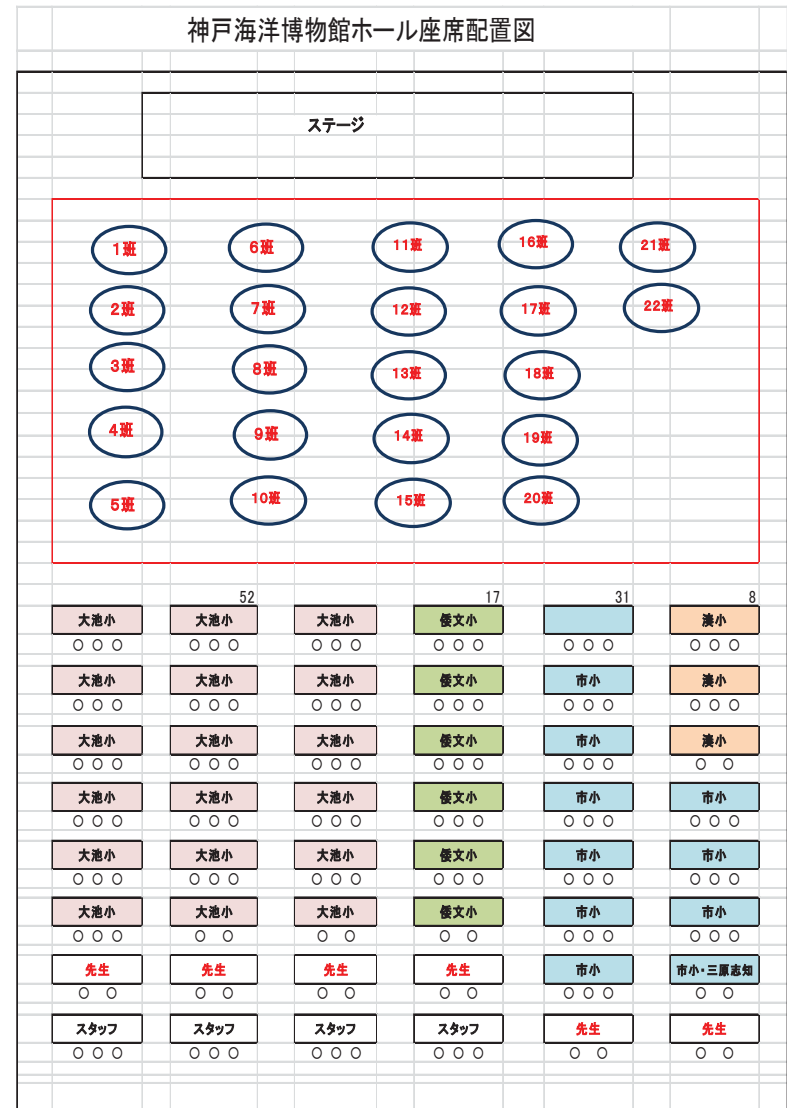
色		神戸関係 大阪関係 予備			合計
		数量	数量	数量	
ホワイト(白)	小学生用	15	31	3	49
ブラック(黒)	小学生用	15	33	3	51
イタリアンレッド(赤)	小学生用	15	-	3	18
ロイヤルブルー(青)	小学生用	20	34	3	57
デイジー(黄)	小学生用	15	27	3	45
グリーン(緑)	小学生用	15	28	3	46
アクア(水色)	小学生用	15	-	3	18
オレンジ(橙)	教員用	12	14	4	30
ターコイズ(薄い水色)	スタッフ用	15	15	0	30
合計		137	182	25	344

### ③ 当日のしおり (プログラム)

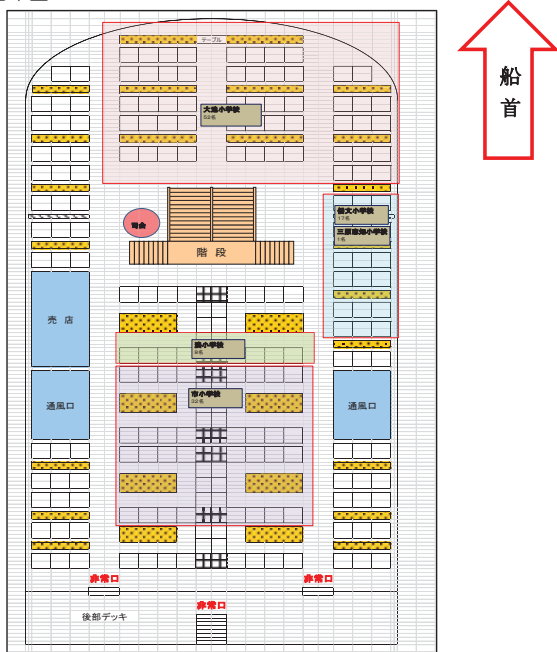
④移動ルート



⑥神戸海洋博物館ホール配席図



⑤ロイヤルプリンセス配席図





### 神戸市・南あわじ市小学生の海に親しむ交流学習会

日本語・英語・フランス語・韓国語・中国語

神戸海洋博物館 / カワサキワールドを見学して、船や海、そして神戸について学びましょう。前回のヒントを確認できればエリアを意のままに案内図に示すので、旗の仲間と協力して答えを探してみよう!

1. 左の写真の船の船名は、1868年1月1日に神戸開港を記念するために建てられた外国の艦艇のうちの名です。この船の名前は ( ) といひます。
2. 旗が赤い船は新造船であるのに、海の交通ルールがあります。海での交際は船の航行に支障をきたさないよう、右側の航行規則を必ず守ります。日本全体で行船は ( ) 方面にありまひます。
3. 旗は白で、赤いパイロンの横から船の船尾が顔や船首、船尾、船首は、どの部分も船を動かす役割があります。このように船首に付く旗は揺りの名前を ( ) と呼びます。
4. 旗は青で、右の写真のコンテナ船の船名は、外国製の貨物船の船名として使われています。この船名は、コンテナ船の船名として ( ) 船名が使われています。右の写真のコンテナ船の船名は、 ( ) と呼ばれます。
5. 旗は赤で、神戸の旗と、世界のいろいろな国々の旗と船尾や船首に似ていますが、この旗は ( ) といひます。アメリカでは、この旗は ( ) と呼ばれます。
6. 旗は赤で、神戸の旗と、世界のいろいろな国々の旗と船尾や船首に似ていますが、この旗は ( ) といひます。アメリカでは、この旗は ( ) と呼ばれます。

神戸海洋博物館 / カワサキワールドの見学案内図

自分の机がどの展示エリアから見るのかを確認しよう!

1階館内案内



2階館内案内



#### 神戸市・南あわじ市小学生の海に親しむ交流学習会

### クイズ大会

## 第1問

淡路島や神戸市は海に面していますが、その海は日本海である。

か  ×

解答: ×

## 第2問

淡路島と神戸市を結ぶ世界最長のつり橋の名前は「あわじ大橋」といふ。

か  ×

解答: × (神戸大橋)

## 第3問

神戸港の沖には空港がある。

か  ×

解答: ○ (神戸空港)

## 第4問

淡路島には、鉄道が走っている。

か  ×

解答: × (1966年まで武蔵野線という会社が、神楽川橋梁を結んでいた)

## 第5問

写真の船の模型は「ロードニー」といふ軍艦ですが、アメリカの軍艦である。(博物館に展示しています。)

か  ×

解答: × (イギリス)

## 第6問

神戸ポートタワーは、人間でいふと今年で40才である。(造られてから40年)

か  ×

解答: × (1964年に出来た)

## 第7問

今日乗った船「ロイヤルプリンセス号」は最大で300人乗ることができる。

か  ×

解答: × (定員500人)



## II 海と日本プロジェクト

### 海・船のお話と海の世界学習や体験型見学会

#### 1. 実施概要

海洋国日本の国づくりや街おこしを担う、次世代の小学生の皆さんに、海の大切さと海の魅力を知ってもらい、海の恩恵に感謝し、併せて、広く海洋についての理解と関心を深めてもらうことを目的に、大阪港を拠点として、小学生高学年を対象に、大阪港を含めた海洋生物の生態系、絶滅品種などの学習を通して海洋環境の大切さを学び、また、普段見ることができない旅客船船内の見学、船員さんの仕事の役割や重要性などの学習、そして、海から見る、いつもとは違う目線から大阪港や沿岸の街並みなどを体感する「海・船のお話と海の世界学習や体験型見学会」を開催した。

・実施場所	大阪港天保山岸壁及び大阪港内		
・実施日時	平成28年7月7日(木)	08:30~15:30	
・参加者	151名(スタッフ、教師を除く)		
	大阪市立田中小学校	5年生	54名
	大阪市立築港小学校	6年生	34名
	大阪市立八幡屋小学校	5年生	32名
	大阪市立八幡屋小学校	6年生	31名

#### (1) サンタマリアの船内見学(10:00~11:00)

- ① 通常の定期便の出港前約1時間、見学会のために特別に貸し切り、船内で体験型の見学会を実施した。参加児童は学校毎に4グループに分かれ、船内4カ所のポイントを巡って、サンタマリア号の船員指導による児童向けの体験型プログラムを体験して回った。



- ② 船内での体験型プログラムは以下の4体験を参加者全員体験した。

- ・船長講話  
(操船する人々の仕事の内容や役割、大阪港を出入りする船の種類など)
- ・ロープワーク  
(舳結びなど、基本的なロープの結び方の体験)
- ・救命胴衣の着用体験  
(救命胴衣の着用の仕方、役割、特徴、着用時の飛び込み方などを解説し、二人一組で着用体験)
- ・船内探検  
(4層に分かれる船内を、乗組員の解説の下、見学して回る)

#### (2) サンタマリアに乗って大阪港内クルーズ体験(11:00~11:45)

- ① 天保山岸壁を出港した船は、一旦安治川を遡上。安治川右岸にはユニバーサルスタジオジャ

パンがあり、水上から垣間見えた園内のアトラクションに歓声を上げていた。

- ② 船はその後反転し大阪港内に戻り桜島埠頭を通過した時には、ちょうど石炭を積んだ大型貨物船がタグボートに押されて接岸しようとする光景に遭遇した。その後、咲洲のコンテナ埠頭横を航行した際には、ガントリークレーンでコンテナを次から次へと船に積み込むシーンに間近に接することが出来た。
- ③ 開催当日は摂氏35度近い猛暑の中、出港前は猛烈な日差しと高温に少しバテ気味になっていた参加者もいたが、出港後は心地よい潮風を肌を感じながら、眼前に広がる海や行き交う船、海から見るいつもとは違う目線からの大阪港や沿岸の街並みに、参加児童は一樣に目を輝かせていた。



ロープワーク講習



船内説明

#### (3) 海洋学習の実施(12:45~13:15)

- ・会場 : 天保山船客ターミナル会議室
- ・テーマ: 海の大切さと船員の仕事
- ・講師 : 近畿内航船員対策協議会 会長 上窪 良和 氏

- ① 午後からは、かつて30万トン級の大型外航貨物船の船長を務められた上窪講師に「海の大切さと船員の仕事」と題して講演を頂きました。

- ② 冒頭、海に囲まれた日本は外国との交易によって成り立っていることを強調され、輸入(重量ベース)の約99.7パーセントが船によってなされ、残りの約0.3パーセントが飛行機によるとのお話があり、そして、日本の輸入品(重量ベース)の上位6種は何だろうと、参加児童に問い掛けるなど話しを進めていきました。



児童からは積極的に手が挙がり、自分達の思う答えが次から次に出了た。中でも、LNG(4位)という難問に答えた児童に皆で驚嘆したり、中には珍答も飛び出し、海で成り立つ日本について楽しく学びひと時を過ごすことが出来た。

上窪講師から、児童にも理解出来るようユーモアを交えて、分かりやすくお話をさせて頂きました。聞いていた児童も話の内容に興味を持ったのか、最後の質問コーナーでは、次々に質問の手



が挙がり、時間を超過するほど大盛況でした。児童からは、「船にはどれくらいの種類あるの?」「船はなぜ浮くの?」「船に乗って世界を巡って、一番美しい港はどこだった?」「船員になったらどれくらいの給料がもらえるの?」等々、子供目線のユニークな質問がたくさん出され、楽しく海や船を学ぶひと時を過ごすことが出来た。

(4) 環境学習の実施 (13:40~14:10)

- ・会場：海遊館ホール
- ・内容：大阪湾の生物について
- ・講師：海遊館飼育展示部普及交流チーム 副参事 北藤 真人 氏

- ① 海遊館飼育展示部の北藤真人講師から「大阪湾の生物について」と題してお話を頂いた。
- ② 冒頭、大阪湾の大部分が護岸となっているが、一部自然の浜辺が残っている箇所があること、また、淡路島に蓋をされたような形になっていることなど、大阪湾の特徴のお話があった。
- ③ 大阪という大都市を後背地にかかえる特徴として、街を經由して流れ込む川の水により、湾内に多くの有機物が流れ込むこと、そしてその有機物を求めてプランクトンが集まること、更にプランクトンを狙ってカタクチイワシなどの小魚が集まり、そしてその小魚を狙って、鯛などの大型の食用魚も豊富であるという、意外に大阪湾は魚が豊富であることの説明があった。
- ④ しかし一方で、護岸の開発により干潟などの自然な形の浜辺が消失したことによる大きな弊害の紹介があった。それは、干潟が広がっていた時代には、カニやゴカイなどの生物により、川上から流れてくる汚れや有機物が分解されていたが、干潟の消失によりそのような機能は果たされず、プランクトンにより分解され尽くされない有機物が、海底にヘドロとして蓄積するという大きな課題があるというお話であった。
- ⑤ 最後に、参加児童に向けて二つのお願いがあった。日常生活で汚れた水を出すことをより少なくする工夫を、各自考えてみて欲しいということ、そして、海や川に決してゴミなどを投げ捨てないことを心がけてほしいとのお話を頂いた。



(5) 海の生物観察 (14:10~15:10)

大阪が誇る水族館「海遊館」に入館し、海の生物を見学し学習を深めた。

参加児童は海遊館の「探検ノート」を片手に、展示生物の案内などを書き写したり、館内スタンプラリーを楽しんだり、サメやエイなどの魚に実際に触れてみるなど、命を育む海の大切さや奥深さ、そして、海の恵みについて一層理解と関心を深めることができた。



(6) 海学び舎絵手紙の作成

- ① 参加者から、「海学び舎絵手紙」(はがきサイズ)を当センター宛てに送付していただくようお願いしたところ、参加小学校単位でとりまとめ下記枚数の送付があった。

- ・絵手紙総数 255 枚
- ・内訳 (別添絵手紙参照)
  - サンタマリア 70 枚
  - 海遊館等 185 枚

② 絵手紙展示

サンタマリア船内に平成 28 年 11 月 10 日より展示中



2. 参加小学校及び参加者数

平成28年度「海学び舎」あらかると啓発事業 参加小学校一覧

大阪港分科会									
	学校名	校長名	〒	住所	参加児童数 5年生	参加児童数 6年生	引率教員数	参加者合計	備考
1	田中 小学校	教頭 家田 志朗	552-0005	大阪市港区田中2-10-34	54	0	3	57	
2	茶屋 小学校	校長 滝川 清夫 教頭 河田 雅英	552-0021	大阪市港区茶屋1-10-38	0	34	4	38	
3	八幡屋 小学校	中戸 晋代	552-0014	大阪市港区八幡屋3-3-5	32	31	7	70	
合 計					86	65	14	165	

(配付資料)





3. 「海・船のお話と海の世界学習や体験型見学会」実施状況写真  
 【オリエンテーション】（天保山船客ターミナル会議室）



実行委員長挨拶



スケジュール説明



【サンタマリア前集合写真】



田中小学校5年生



築港小学校6年生



八幡屋小学校5年生



八幡屋小学校6年生

【サンタマリア内見学】



船長講話



救命胴衣装着体験



船内見学



ロープワーク体験



大阪港内クルーズ



船内クイズラリー

【海洋学習】



上窪講師



【環境学習】



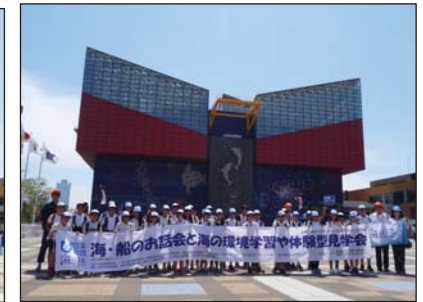
北藤講師



【海遊館前集合写真】



田中小学校5年生



築港小学校6年生



八幡屋小学校5年生



八幡屋小学校6年生

【海遊館見学】



海の生物触れ合い体験



探検ノートで学習



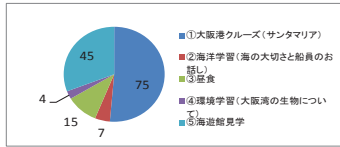
#### 4. アンケート結果 (回答数 146 名)

「海学舎」あらかると啓発事業

海・船のお話し会と海の環境学習や体験型見学会 アンケート結果

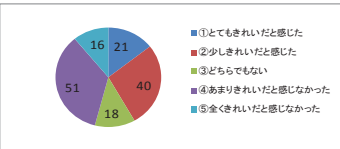
問1 今日のイベントで一番面白かったところは何ですか。

①大阪港クルーズ(サンタマリア)	75
②海洋学習(海の大切さと船員のお話し)	7
③昼食	15
④環境学習(大阪湾の生物について)	4
⑤海遊館見学	45
⑥その他( )	
合計	146



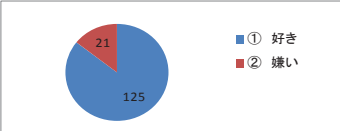
問2 海はきれいだと感じましたか。

①とてもきれいだと感じた	21
②少しきれいだと感じた	40
③どちらでもない	18
④あまりきれいだと感じなかった	51
⑤全くきれいだと感じなかった	16
合計	146



問3 あなたは海が好きですか。

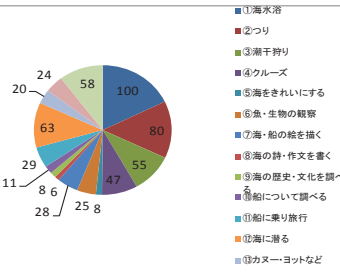
① 好き	125
② 嫌い	21
合計	146



問4 問3で答えた理由についてどんなところが好き・嫌いですか。教えて下さい。  
最後尾参照

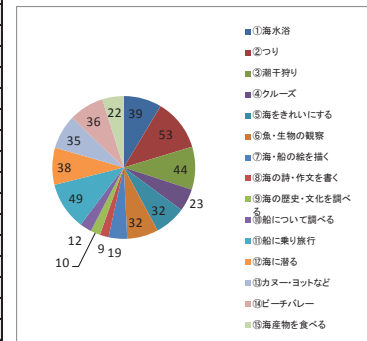
問5 あなたはこれまで、海でどのような体験をしたことがありますか。(該当する番号すべてに○をしてください)

①海水浴	100
②つり	80
③潮干狩り	55
④クルーズ	47
⑤海をきれいにする	8
⑥魚・生物の観察	25
⑦海・船の絵を描く	28
⑧海の詩・作文を書く	6
⑨海の歴史・文化を調べる	8
⑩船について調べる	11
⑪船に乗り旅行	29
⑫海に潜る	63
⑬カヌー・ヨットなど	20
⑭ビーチバレー	24
⑮海産物を食べる	58
⑯その他( )	
合計	562



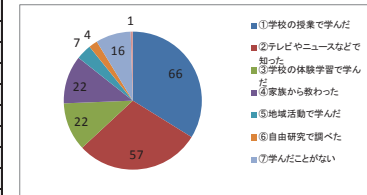
問6 あなたは今後、海でどのような体験をしたいですか？

①海水浴	39
②つり	53
③潮干狩り	44
④クルーズ	23
⑤海をきれいにする	32
⑥魚・生物の観察	32
⑦海・船の絵を描く	19
⑧海の詩・作文を書く	9
⑨海の歴史・文化を調べる	10
⑩船について調べる	12
⑪船に乗り旅行	49
⑫海に潜る	38
⑬カヌー・ヨットなど	35
⑭ビーチバレー	36
⑮海産物を食べる	22
⑯その他( )	
合計	453



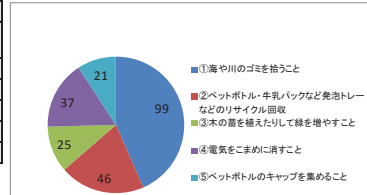
問7 エコ(環境問題)について学んだことがありますか。

①学校の授業で学んだ	66
②テレビやニュースなどで知った	57
③学校の体験学習で学んだ	22
④家族から教わった	22
⑤地域活動で学んだ	7
⑥自由研究で調べた	4
⑦学んだことがない	16
⑧その他(塾、)	1
合計	195



問8 エコ活動で皆が取り組みれば良いのと思う活動は何ですか？

①海や川のゴミを拾うこと	99
②ペットボトル・牛乳パックなど発泡トレーなどのリサイクル回収	46
③木の苗を植えたりして緑を増やすこと	25
④電気をこまめに消すこと	37
⑤ペットボトルのキャップを集めること	21
⑥その他( )	
合計	228



問9 あなたは海の日を知っていますか。

①知っている	114
②知らなかった	32
合計	146

問4 (海が好き、嫌いの主な理由)

好き	泳いだりするのが楽しいから、砂浜でも遊べるから
	海はいろいろな魚がいて、見るだけで楽しいから(イルカ、エイ、マンタ、カメ、ジンベエザメなど)
	魚が好きだから
	海はきれいで魚やいろんな生物がすんでいて海藻とかもきれいで観察できるから
	釣りもできるし、魚も見れるし、サーフィンもできるから
	波の音がきれいだから
	海は風があって気持ちがいい、潮風が気持ちいい
	潮のおいが好き、海のおいが好き
	海はきれいでキラキラ輝いてきれい!
	海はキラキラ光ったり、日本が海に囲まれているから
	海を見ていると落ち着くから、眺めていると心が癒される
	自然なものの一つで、地球にないといけないものだから
	水が透き通っているから
	しょっぱいところ
	海を見たり、触ったり、貝殻を拾ったりするのが好きです。
海で夕焼けを見ること	
海ではいろんな遊びができるから	
広くて大きいから、海は世界のどこでも行けるから	
海はいろんな自然があるし、海風が涼しいから	
海全体が見れるから、開放感があって、広々としているから	
嫌い	海は、サメやエイなどこわい生物がいるから
	クラゲにさされたらいやだから
	塩水が辛い。肌が焼ける、暑い、クラゲなどいる、海藻の感覚が気持ち悪い
	海は危険がいっぱいだから
	濡れるから
	嫌な思い出があるから
	ゴミがいっぱい浮いたりしていたから
	海が汚いから
酔うからきらい	
海を行き来するときに乗る船が嫌いだから	

5. 講演録

「海学び舎」あらかると啓発事業  
「海・船のお話会と海の環境学習や体験型見学会」

開催日時 : 平成28年7月7日(木)

08:30~15:30

開催場所 : 大阪港天保山岸壁、大阪港内

1. 開会挨拶

(公社)大阪港振興協会 事務局長 有田 正文

2. 船内見学(大阪水上バス(株) サンタマリア)

①船長講話

②ロープワークの勉強

③船内見学

④救命胴衣着用体験

3. 海洋学習(天保山船客ターミナル)

講演 「海の大切さと船員の仕事」

近畿内航船員対策協議会会長

上窪 良和 氏

4. 環境学習(海遊館ホール)

講演 「大阪湾の生物について」

(株)海遊館 飼育展示部副参事

北藤 真人 氏

5. 閉会挨拶

(公財)関西交通経済研究センター理事長 岩崎 勉



## 1. 開会の挨拶

(公社)大阪港振興協会 事務局長 有田正文 氏

只今、ご紹介いただきました、有田と申します。主催者を代表いたしまして開会のご挨拶を申し上げます。

本日の事業には、港区の田中小学校、築港小学校、八幡屋小学校の3つの学校からご参加いただきました。皆さんの小学校は大阪港から大変近いところにあります。大阪港に近いところの小学校ですから、皆さんのお父さんやお母さん、或いは親戚の方の中には港や海で仕事をしておられる方があるかもしれません。けれども、皆さんは普段海のことを勉強したり船のことを学んだりする機会は少ないのではないかと思います。そこで、海の近くに住んでいる皆さんに、ぜひ、海の重要性や海の恩恵などについて勉強していただきたいと思い、今日来ていただくことになりました。

今日は、勉強することが3つあります。一つは、船のことです。これから大阪水上バスの「サンタマリア」に乗ります。船というのはどのようなものかよく勉強してほしいと思います。昔、飛行機のない時代は船に乗って外国に行きました。今も、クルーズ客船に乗って外国に行きますし外国と取引する貨物のほとんどは船で運ばれています。

二番目は、その船を動かしている人、船員さんのことを勉強します。船員さんは船を動かすためにどのような仕事をしているのか、また船員さんになるためにはどのような勉強をすればよいのかということ学びます。

三番目は、海遊館で大阪湾の生き物のことを勉強します。大阪湾にはどのような生き物が住んでいるのかということ、また地球の環境をまもるためには海を大事にしなければならないことも学びます。このように今日は船のこと船員さんのこと、そして海のことを勉強します。

今日の事業を行うために、日本財団からたくさん補助金をいただきました。そして関西交通経済研究センターや近畿運輸局をはじめ大阪港に関係するたくさんの方の皆様にご協力をいただき準備を進めてきました。今日お越しいただいた生徒諸君にはこの事業を実施するにあたり御苦労いただいた皆様に感謝の気持ちを持つとともにそのご苦労に報いていただきたいと思います。ご苦労に報いるというのは、皆さんが今日一日しっかりと勉強することです。今日は暑いですが一日頑張ってください。

以上で、開会にあたりましての私のご挨拶とさせていただきます。



## 2. サンタマリア船内見学

船長講話 (サンタマリア 豊田船長) 会場：サンタマリア 3階特別会議室



皆さん、おはようございます。サンタマリア船長の豊田と申します。どうぞ、よろしくお願い致します。

皆さん、今まで船に乗ったことがありますか。時々このようなイベントで同じ質問をしますが、なかなか乗ったことがある人は今日ほど多くありません。さすがに皆さん、港の近くに住まわれている方たちだと思えます。

最近では、船でないと行くことができない場所というのが少なくなってきました。四国とか九州なども電車や飛行機などで行けるようになりましたので、船に乗る機会が少なくなってきました。

皆さん、今日は、船の雰囲気とか海の雰囲気を楽しんでいただきたいと思います。

これから、船は出港しますが、たくさん船とすれ違います。特に、見てほしいのは今日の朝、コンテナ船という大きな船が港に入ってきましたので、その横を通りますから見てください。コンテナという四角い箱がたくさん積まれている船です。私たちの生活につながる食べ物や衣類を外国から運んできてくれます。飛行機も物を運んだりするのですが、たくさん物を一度に運ぶのが船の特徴だと思います。コンテナを積み下ろししているところも見ることができると思います。

そして、この船を動かしている私たち乗組員の仕事があります。この船には5名の船員、乗組員が乗っております。私は船長ですが、船長を含む甲板部は、船を実際に安全に目的地まで走らすという仕事を3人でしています。あとは、機関部があり、エンジンをみる人が2人います。船は港を出ると次の港までの途中物が壊れたからといって修理屋さんに来てくださいというわけにはいきませんので、機関部の人たちが身近な電化製品から大きなエンジンまで何でも修理してしまいます。

この5名でこの船を動かしています。フェリーとかになりますと、更に事務部といひまして、お客さんの相手をする部署もあります。

ここで、少し皆さんから質問を受けたいと思います。

Q： いちばん大きな船は何トンですか？

A： いちばん大きな船というと、豪華客船とかで船室が何百室とかの船もあります。

乗組員とお客さんも含め5,000人が乗れる船もあります。先日、実はすごく大きなクルーズ船がこの天保山岸壁に着岸しました。地下鉄の大阪港駅から見るとマンションが出来たのかと思うくらいの船でした。その豪華客船もクルーズの値段がだいぶ安くなってきて、食事も含まれて1日1万円くらいで、普通の旅行に行ってもホテルに泊まるくらいの値段で過ごせるようなツアーも最近出てきています。

大きな船が載った本が図書館にあるかもしれませんが、色々な形の船や大きな船などをぜひ調べて教えてください。

Q： なぜ、この船はサンタマリアというのですか？

A： このサンタマリアという船、乗る前に不思議な形をしていたのを気が付かれましたか。ちょっと

変わった形をしていましたね。この船は、昔、コロンブスといって有名な人がいて、アメリカ大陸を発見したといわれている人です。その人がアメリカ大陸を発見するときに乗って大海原を船で進んでいました。その当時はエンジンがついていないので、風を受けて進む帆船でした。その船が「サンタマリア号」という船で、実際にコロンブスが乗っていた「サンタマリア号」はこの船より大分小さかったのです。当時の「サンタマリア号」の2倍にした大きさに復元したのがこの「サンタマリア」の大きさといわれています。そのコロンブスの「サンタマリア号」を模<sup>なぞ</sup>って作ったのがこの「サンタマリア」です。コロンブスがアメリカ大陸を発見した時の船、それをイメージした形となっています。

Q： この船は、何人働いていますか？

A： 乗組員としては5名です。1日をとおして船を動かしています。その他、2階に売店があります。そこに1名～2名います。その他、港に船をロープで留めます。船からロープを投げて、それを引っ張りあげて留めてもらう人や切符を売る人、お客さんを誘導する人など陸上の仕事をしている人もいます。

Q： もしも人が落ちた時に誰が助けに行くのですか？

A： 船の世界では、人命救助はいちばんに優先されることなのです。もし、人が落ちたとなれば私たちが自分で探しにいきます。それで、どうしても見つからないという話になると、海には海上保安庁という海の警察的な仕事をしているところがあります。大阪港の場合は、大阪府警という警察も一緒にいます。そういうところと連携をとりながら一緒に探します。海上保安庁というのは日本の海だけをみているところで、太平洋のど真ん中ではどうするのかという話になります。そういう場合は、付近にいる船が皆で探しに行きます。「シーマンシップ」という言葉がありまして、船員はお互いに助け合う精神を大切にしていますので、何か船が困っている非常事態のときは、みんなで助けに行きます。

皆さんも、日頃の生活中で、そういう「優しさ」「人を気遣う気持ち」が育っていったらいいのではないかなと思います。

Q： 具体的に人が落ちてしまったら、どうするのですか。

A： まず、救命浮環という浮き輪を投げます。転落した場所のいちばん近くに投げます。夜になりますと、照明のついたものもあり、それを投げます。

まだまだ、いろんな質問があると思いますが、時間が来ました。この後、楽しいクルーズがありますので楽しんでください。これで、私のお話を終わらせていただきます。

### 3. 海洋学習（天保山船客ターミナル）

講演 近畿内航船員対策協議会会長 上塚 良和 氏

テーマ：海の大切さと船員の仕事

皆様こんにちは。

本日の「海・船のお話と海の環境学習や体験型見学会」に参加された小学生の皆さんに、少しでも船や海のお話を聞いてご理解いただきたいと思います。

先ほど、サンタマリアに乗船されて、ロープワークとかライフジャケットの装着方法、船長さんからも少し船に関するお話がありました。私からはもう少し詳しく、船と船員さんの仕事についてお話をさせていただきます。

日本は四方全部海であり、海と関わりなしでは生きていけない国です。いろいろ海に関わり方はありますが、まず一つは、物を運ぶと言う形で、海に運ぶと書いて「海運」といいますが、「海運」という産業があります。船が行っている仕事を少し難しい言葉で言いますと「海<sup>うみ</sup>」と「運<sup>はこぶ</sup>」と書きます。これで海運といえます。

海の上で物を運ぶということを海上運送といい、これに使う道具が船であります。

皆さん、物を運ぶという海ではない方法を思い浮かべる人が多いと思います。海の外に物を運ぶ方法はもう2つありますが、わかりますか？

(小学生)：「飛行機」です。

はい、そうです。飛行機で運ぶことを何と言いますか。「空運」と言います。

もう一つ、一番皆さんの身近にあるものです。

(小学生)：「陸運」です。

はい、陸運です。物を運ぶ方法はこの3つあります。

陸運で物を運ぶのに何をを使うのが多いかということ、トラックが多いです。それから列車という方法があります。

海運、陸運、空運の3つの運び方があるのですが、このうち「空運」というのは、物も運んでいます。皆さんは乗ったことがあると思いますが、殆ど人間を運んでいるのです。人間が主です。他の2つが主に荷物を運んでいます。この3つを比べたときに、日本が色々な外国と物を買ったり、売ったりして運ぶこと、これを「貿易」と習いましたね。「貿易」するときには使える方法は、「陸運」「海運」「空運」のどれでしょうか？ 日本は周りが海なので、逆に一つ使えない方法がありますね。

(小学生)：「陸運」です。



「陸運」は、トラックを使って日本国内を運ぶ方法としては一番多いのですが、残念ながら海を渡れないので、貿易には使えないのです。

貿易に使えるのは、「海運」と「空運」なのですが、「空運」は先ほど言いましたように、ほとんど人間を運ぶのがお仕事ですから、結局、海外と日本との間で物を運ぶとすれば、船を使うしかないのです。

では、どれくらい船で運んでいるかというと、日本と外国との間の貿易の99.7%、ほぼ100%に近くを船で運んでいます。残りの0.3%だけが飛行機で運んでいるのです。

飛行機の0.3%はどのようなものを運んでいるのかというと、飛行機は運賃が高いですから、高くてもいいもの、或いは、あまり大きくなくて飛行機に乗るもの、急ぐものを運んでいます。

皆さん、飛行機で運んでいるもので想像がつくものがありますか？



(小学生)：「宝石」です。

そうです。その他にもあります、小さくて軽くてすごく値打ちのあるものです。

コンピュータとかIT機器などは、小さいけど値打ちがあるから飛行機で運んでいます。でも、他のほとんどは船で運んでいます。

日本と外国との間で船が99.7%運んでいるのですが、何を運んでいるのか、ここで、皆さんといっしょに考えていきたいと思います。

実は、この話は中学校などでお話をしますが、中学生と先生が集まっても、日本が海外から買っているものの順番をあてていただくと、1番から6番まで全部あてた学校は中学校でもほとんどありません。今日は、小学生の皆さんで、少し難しいかもしれませんが、先生と相談して答えていただきたいと思います。

なぜ、ベスト6かといいますと、7番目からは運搬の量がぐんと少なくなるので、日本が外国から運ぶ量の多いもの6つまでが非常にたくさんあるということです。

まず、1番ですが、テレビのクイズ風で言いますと、正解率が85%くらいあります。

1番は何ですか？

(小学生)：「石油」です。

はい、石油が無ければ、日本はもちろん他の国でも生きていけません。2番は？

(小学生)：「石炭」です。

石炭は2番ですが、日本は石炭を買って何に使うと思いますか？

(小学生)：「船」です。

船に使っていたのは、70年前位までです。

(小学生)：「鉄を作るとき」です。

そう、製鉄です。半分くらいは製鉄に使いますが、もう半分は何につかいますか？

(小学生)：「発電」です。

正解です。3番目は？

(小学生)：「鉄鉱石」です。

正解です。鉄というのは、もともと鉄鉱石の茶色い石ころです。鉄というのは、鉄鉱石を溶かして、ドロドロにして、鉄だけを取り出します。その溶かすのに石炭が要るわけです。だから、石炭と鉄鉱石は名コンビです。

4番目は？皆さんのどこでもあります。

(小学生)：「天然ガス」です。

正解です。我々は、普段、LNG、日本語では液化天然ガスで、地下から出てきたガスをマイナス160度まで冷やして、液状にして外国から持ってきます。

5番目は？皆さんの生活に一番関係のあるものです。

(小学生)「穀物」です。

正解です。穀物の中で、日本が一番多く買っているのは、小麦とか大豆ではなくて、トウモロコシです。トウモロコシは年間1,500万トンくらい買っていますが、何のためにトウモロコシを買うのでしょうか？

(小学生)：「家畜のえさ」です。

そうです。ちょっと難しいことばで「飼料」といいます。これは、牛とか豚のエサです。人間が食べるために買っているというよりも、ほとんどは家畜のエサです。

6番目は木材です。これが、日本が外国から輸入しているベスト6です。

1番 石油

2番 石炭・発電・製鉄

3番 鉄鉱石

4番 天然ガス(LNG)



5番 穀物（とうもろこし飼料）

6番 木材

これがなければ、日本は1か月も生きていけないのです。ということは、船が止まると日本という国も、日本の産業も皆さんの暮らしも止まるのです。生きていけないのです。それくらい大事な役割を船がしているわけです。

船の一番の得意技は何かというと、大量に運ぶということです。一番大きな船は、石油を運ぶタンカーで、長さが350mぐらい、幅は60mあり、1回で約30万トンの石油を運べます。

例えば石油をみると一年間に約2億トンありますから、この30万トンの船が年間700隻くらい日本に来ないとやっていけないのです。

大体、この30万トンの超大型船が1日2回、日本のどこかの港に石油を運んでくるのです。

この石油はどこからくるのでしょうか？日本にくる石油の9割近くは、ペルシャ湾からインド洋を通して、マラッカ海峡を抜けて、南シナ海をあがってきて、日本に来るのです。片道20日くらいかかるのです。

そして、2番目の石炭、3番の鉄鉱石のほとんどは、オーストラリアから日本に運んでくるのです。LNGはどこから来るかといいますと、ペルシャ湾とインドネシアが主です。穀物は主にアメリカ、それから南米から来ます。木材はどこから来るかといいますと、一部はアメリカですが、主に東南アジアです。

船の得意技は大量輸送ですけど、船の弱さ、弱点は何だと思えますか？

### （小学生）「遅いことです。」

正解です。船はスピードが出ないのです。なぜかと言いますと、船というのは、走っているときは、荷物を積むと海の中に大体2/3くらい沈んで走ります。海面に出ているのが1/3くらいです。進むのには、水を押しよけながら進まなければいけないのです。皆さんは自転車を一生懸命こいだら、前から風、すなわち空気があたってけっこうしんどいではないですか。空気でもそれくらい抵抗があるわけです。水は、空気より何百倍、何千倍もの抵抗があるから、水を押しよけながら走ることは大変なわけです。

一生懸命走っても、時速にすると25km/hからせいぜい30km/hくらいです。

これを、陸運と空運と比べると、陸運のトラックは、高速道路を走ると大体90km/hくらいです。飛行機（ジェット機）は、大体900km/hです。ということは、船は車の1/3くらいの速さ、飛行機の1/30のスピードしか出ないのです。

今、日本からアメリカの西海岸のサンフランシスコまでジェット機で10時間くらいで飛びます。30倍遅い船が、日本からアメリカまで行ったら、どれくらいかかるのでしょうか。大体12.5日くらい（300時間÷24時間）、実際には風とか波などの天候等を考慮すると約2週間くらいかかると思ってください。

船の弱点はスピードが遅い、そのために遠いところに行くには、何日も何日も走り続けるのです。ですからそこで働いている船員さんは、船の上で生活しながら仕事をするのです。これは、皆さんのお父さん、お母さんの仕事と一番違うところです。皆さんのお父さん、お母さんは、朝出かけた夕方には

帰ってきます。土曜日、日曜日は大体休みです。ところが、船に乗っているとずっと船の上にはいますから、一番長い場合だと何か月も乗ることになるわけです。

それでは、船員さんは具体的にどんな仕事をしているのか、簡単に言いますと、一つは船を無事に走らすことです。他の船にぶつからないように、浅瀬に乗り上げないようになど船を安全に走らすための人がいます。

もう一つ、船というのは、船の後ろ側の下の方に機関室（エンジンルーム）があります。ここには、機械がびっしり詰まっています。船を走らせるためのエンジンとか船の中で使う電気も自分で作ります。それから水も場合によっては海水から作ります。いろんな機械が船に乗っています。

何故かというと、船はいったん港を出るともう陸上とは繋がらなくなってくるのです。皆さんは、家に居れば、電気も電線からくるし、水道も地下からくるし、ガスもパイプでくれば、船は海の上で独りぼっちですから、要るものは全部船で作らなければならないのです。ということで、いろんな機械を積んでいます。この機械を正確に動かようにする人も乗っています。

皆で、チームワークで力をあわせて、あの大きな船を動かしているわけです。誰かがこの船員という仕事をやらないと、もしも船がとまると日本はえらいことになるわけです。今、外国航路は殆ど日本人ではなくて、外国人に乗ってもらっています。一番多いのはフィリピン人です。要するに、外国人に頼らないとなかなか日本の海運というのはやっていけない状況です。

これまで、外国航路の話でしたが、日本国内のお話をします。国内での輸送は陸上の「陸運」が主なのですが、やはり重たくて大きなものはトラックでは運べないので、国内でも船を使っており、「内航海運」といいますが、いろんなルールがあって、船員は日本人が乗っています。

残念ながら若い人がなかなか船員になってくれないので、平均年齢は50歳近くにあり、60歳以上は1/4という高齢化の社会になっています。皆さん、今日話を聞いて、将来を決めるのはもう少し先でしょうが、どんな仕事をやろうかと思った時に、迷う人もいると思います。

私は、サラリーマンよりとにかく外国に行きたい、給料も多い方がいいというのが船員の仕事だったので、高校の時に迷わず船員になることを決めました。皆さんは将来、自分の仕事を選ぶときに、ちょっと今日のことを思い出してもらって、そういえば、上窪さんという人が、船員の話をしていて思い出していただければ幸いです。

最後に、外国の話、海の話、船の話、何でもよいので質問してください。

### （小学生）：「何で船は浮くのですか？」

これは、アルキメデスの原理と言い、むずかしいのですが、船は鉄でできており重たいのですが、中が空洞ですので、そうすると大きさの割に重さが水より軽いので、水に浮かべると下からの浮力が船の重さより大きいから浮くのです。だから、どこかに穴があいて、水が入ってくると沈んでしまいます。

### （小学生）：「船の値段はいくらですか？」

30万トンのデカイタンカーでは100億円以上します。

(小学生)：「船は何種類あるのですか？」

船は専門に運ぶのがいっぱいあります。コンテナ、鉄鉱石、石炭、石油、化学品、セメントなどを運ぶ船があって、おおよそ30種類くらいあります。

福井の小学校でお話した時に、「世界で一番良い港はどこでしたか？」という質問がありました。

私は、世界中をほぼまわり多くの港に行きましたが、一番良いと思った港は、ヨーロッパのベルギーという国の「アントワープ」という港があり、100年前、200年前の石造りの家が壊されずに全部残って、その間に石畳の道があって、港の街並みが素敵なおとこでした。

また、港が一番きれいなところは、オーストラリアの「シドニー」で世界一美しい港だと思います。

港の入り口の両側が200mくらいの断崖絶壁で、その間を船が入っていくのです。すばらしい眺めでした。皆さん、将来外国にいかれましたら、オーストラリアの「シドニー」とかベルギーの「アントワープ」とかに行かれたらよいと思います。

(小学生)：「船での睡眠時間は？」

普通に8時間交代で当直に入りますから、だいたい7時間くらいは寝ます。

(小学生)：「船員の給料はいくらくらいですか？」

陸上の仕事より、大分よいのです。

(小学生)「なぜ船員になったのですか？」

いちばんの理由は、高校生のとき将来の仕事を考えたときに、外国に行ける仕事をしたいのと、サラリーマンになって通勤するのがいやであり、机に座って仕事をするのもあまり好きではないということからです。

(小学生)：「一番好きな船の種類は？」

いちばん好きな船は、残念ながら客船には乗ったことがないけど、もしも乗ったら客船だと思います。そのほかは、貨物船は世界の色々な所に行けるので貨物船が良いのです。

以上、海の大切さや船の重要性、船員の仕事などの話を終わらせて戴きます。



#### 4.環境学習（海遊館ホール）

講演 (株)海遊館 飼育展示部副参事 北藤 真人 氏

テーマ：「大阪湾の生物について」



本日は、たくさんの小学生の皆さんに集まっていただきまして、ありがとうございます。

私は、海遊館で飼育係をしています北藤といいます。今日、皆さんにお話しするテーマは、みなさんにとって地元の海である「大阪湾」についてです。皆さんは、お話が終わってから海遊館の見学をしていただきますが、海遊館に展示しているのは、世界の海のいろんな生き物たちです。

「大阪湾」はその世界の海にもつながっています。

午前中、皆さんは船で大阪湾の中を回りましたが、印象に残ったものがありましたか？海の色はどうか？（小学生：汚い）そうですね、茶色っぽい色をして汚く感じたと思います。特に夏は1年で最も茶色くなる季節です。こんな海では、生き物がすくすみにくいと思うかもしれませんが、実はこの海は私たちが食べる魚やエビ、タコなどがたくさんとれる豊かな海なのです。

右のスライドは、上空から大阪湾を見た写真ですが、大阪湾とはそもそもどこを指すのかわかりますか。この真ん中の青く色をつけた場所が大阪湾です。

左側に大きな島がありますね。この島の名前がわかる人いますか。（小学生：淡路島）

そうですね。大阪湾はこの淡路島にフタをされたような形になっています。このため、外から海水が入ってくる場所が2ヶ所しかなく、海水のいれかわりが少ない海です。皆さんが今日、船でクルージングした大阪港を空から見た写真がこれです。船がつく港の施設や、工場、マンションなどもありますね。

皆さんが知っている大阪湾はこのような場所が多いと思います。皆さんの中で、大阪湾の浜辺で遊んだことのある人はいますか？あまりないですね。大阪湾では浜辺といえるような場所は大変少なく、ほとんどがコンクリートで固められた人が近づきにくい海になってしまっています。でもほんの少しですが今も「岩場」・「砂浜」・「干潟」といった自然の浜辺も残っているのです。

「岩場」にはごつごつした岩があり、いろんな海藻がいっぱいはえています。「砂浜」では海水浴やサーフィンができます。最後の「干潟」はどんな場所だと思いますか？

潮は満ちたり引いたりしますが、潮が引くと干上がってしまう砂や泥でおおわれた広い場所があります。それが干潟です。干潟については後でもっとくわしくお話しします。今お話しした「岩場」「砂浜」「干潟」な



どの自然の浜辺が残っているのは、大阪湾の南の方や淡路島の一部だけなのです。皆さんも機会があればぜひ浜辺に行ってみてください。

さて、次のお話です。皆さんは、大阪湾でとれた魚を食べたことがありますか？ あまりないようですね。実は大阪湾は、たくさんの魚や貝・エビ・タコなどがとれる海なのです。

生き物をとるのは漁師さんですね。先日、私は漁師さんの船に乗せてもらってその様子をビデオにとってきました。私が乗ったのは、「底びきあみ漁」を行う船です。底びきあみ漁は、大きなふくろの形をしたあみを海底におろして、船でその網を引っばる漁です。では、ビデオを見ましょう



- ①朝5時ごろ、漁師さんが集まってきました。
- ②船がいっせいに出港します。
- ③網がやぶれていないか調べます。
- ④網を海底におろして広げます。
- ⑤船で20分くらいゆっくり網を引っ張り張ります。
- ⑥網をひきあげます。
- ⑦魚、エビ、シャコ、タコなどがいっぱいとれています。10回くらい網をひきますので、1日にとれるのは、この10倍くらいの量です。
- ⑧種類やサイズごとに分けてカゴにいれます。
- ⑨港に帰ってきました。
- ⑩とれたものを魚市場にだします。
- ⑪魚市場では、漁師さんがとってきたものを魚屋さんが買います。そのあと魚屋さんの店に並べられます。
- ⑫魚屋さんでお客さんが買い物します。

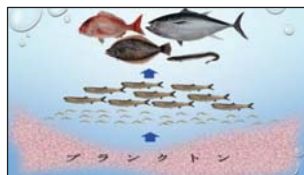
このように、漁師さんが朝早くから出かけてとってきた生き物が、魚屋さんやスーパーで売られていますから、皆さんも知らずに大阪湾の魚などを食べているのかもしれないですね。お店では「大阪湾産」などと表示して売られていますから気をつけてみてください。

では次に、なぜ大阪湾でこのようにいっぱい魚がとれるのか？ その理由を考えてみましょう。まず、先ほどの「底びきあみ漁」でとれていた魚たちは、生きるためには何か食べものが必要です。たくさんの魚たちがとれるということは、その魚たちが食べているエサもたくさんあるはずですね。魚たちが食べているエサとは何かわかりますか。

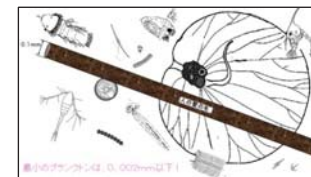


(小学生：プランクトン)

そうですね、「プランクトン」を食べる魚もいますが、その前に、タイやヒラメなどの大きな魚のえさはプランクトンではなく、小魚やエビなどです。大阪湾で多い小魚は「カタクチイワシ」です。

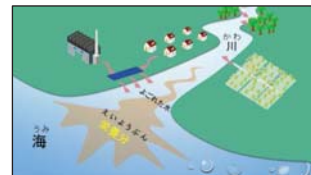


大阪湾では、カタクチイワシなどの小魚をたくさん食べて大きな魚が増えるのです。皆さんはこのカタクチイワシを食べたことがありますか？カタクチイワシはスーパーなどで売られていますが、ダシをとるための煮干として売られていることが多いですね。皆さんが食べたことがあるのはおそらく、「チリメンジャコ」だと思います。実は、チリメンジャコというのはカタクチイワシの子供です。だから、皆さんもカタクチイワシを食べているのです。



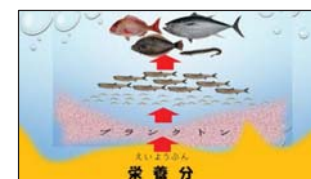
では、たくさんいるカタクチイワシは海でなにを食べているのでしょうか？それが、さっき答えてくれた「プランクトン」です。プランクトンを食べてカタクチイワシが増えて、そのカタクチイワシを食べて大きな魚が増えていくというわけです。

ところで、プランクトンってどんな生き物か知っていますか？ そのほとんどが小さくて、水中をフワフワただよっている生き物のことです。右の絵の中に、皆さんの髪の毛1本が茶色く描いてあります。その大きさとプランクトンを比べてみてください。ほとんどがたいへん小さく、虫メガネでもなかなか見えないくらい小さいです。こんな小さなプランクトンがたくさんいることが、たくさんの魚がとれるヒミツだったのです。



では、なぜ大阪湾にはプランクトンが多いのか？ヒントは川から流れてくる「汚れ」です。川の上流に森があれば葉っぱや枝などが川に落ちてくさります。田んぼの泥水も川に流されます。工場や皆さんの家からも使い終わった汚れた水が下水しり場を通ってたくさん川に流されます。川はこのような「汚れ」を海に運びます。大阪湾ではこの「汚れ」が大変多くそれを栄養分にしてプランクトンがたくさん増えるのです。

ここで、これまでのお話を整理しましょう。大阪湾では海で漁師さんがたくさんの魚などをとっている。なぜそれだけたくさんとれるのかと言うと、「汚れ」を栄養分にして「プランクトン」が増え、それを食べる「イワシ」が増え、そのイワシを食べる「大きな魚」が増えるということです。私たち人間が川に流している「汚れ」も魚たちを増やすもになっているのです。



ところが今、困ったことが起きています。海に流す「汚れ」が多すぎるのです。なぜ「汚れ」が多すぎるかと言えば、大阪の大会にはたくさんの人間がすみ、工場もたくさんあります。そこから出される汚れた水はたいへんな量です。その「汚れ」はプランクトンを増やしますので、どんどんプランクトンが増えます。



今日、皆さんが船に乗って見てきた海は、プランクトンがものすごくたくさん集まって茶色に見えていたのです。先ほどからの話で、プランクトンが増えればそれを食べるイワシが増えて良いのではと思うかもしれませんが、でもそんなにうまくいかないのです。イワシなどに食べられなかった「プランクトン」はやがて死んで海の底にたまりまます。たまった死体はくさって「ヘドロ」に





なります。海遊館前の海の底にはまっ黒なヘドロがたくさんたまっています。ヘドロのたまった場所には生き物がほとんどすめなくなってしまう。

このような生き物がすみにくい海が、大都会に面した海を中心に広がっているのです。では、どうすればよいのでしょうか？

(小学生：ゴミをとる)

そうですね。たまったヘドロやゴミをとりのぞくことも必要です。実際にそのような取組みも行われています。私がここで紹介したいのは、最初のほうで少しお話しした「干潟」です。「干潟」には水をきれいにする働きがあるのです。いったいどのような仕組みできれいにするのでしょうか？まずその説明の前に干潟にすむ生き物たちを見てもらいましょう。この写真は大阪湾の南に少しだけ残っている干潟の写真です。

何か白いものがポツポツと見えますが、何かわかりますか？「ハクセンシオマネキ」というカニです。このカニは干潟の砂の上にたまった、コケとかプランクトンの死がい



など細かなエサを食べます。砂団子といって、砂のうえに小さなつぶつぶの団子状のものがいっぱいありますね。これは、全部「ハクセンシオマネキ」が餌を食べたあとの食ベカスです。

「ハクセンシオマネキ」は、砂をハサミですくって、口の中に入れて、食べられるものだけ取りわけて、残りの砂は団子にして捨てるのです。そのほかに、「アシハラガニ」もいます。

このカニは砂を食べたりしません。「ハクセンシオマネキ」など他のカニをおそって食べます。そのほか、「ウミニナ」という巻貝がいます。たくさんのウミニナが砂の上にいるのがわかりますね。この貝も、「ハクセンシオマネキ」と同じような砂の上の細かなエサを食べます。

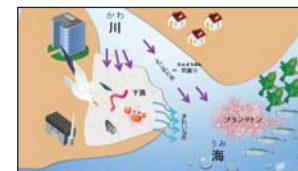


あと、少し気持ちが悪いかもかもしれませんがこれは「ゴカイ」の仲間です。干潟の砂の中にいっぱいいます。「ゴカイ」の仲間は砂の上だけでなく、中に埋もれている細かなエサを食べます。

そして、これまでお話ししたカニや貝、ゴカイなどを食べに鳥もやってきます。

このように、干潟は、食べたり食べられたりしながらたくさんの生き物が集まる場所なのです。干潟が

水をきれいにするしくみは、この図で説明しますと、まず川があって汚れがどんどん流れてきます。川の水が海に出る途中に干潟ができます。するとここに「汚れ」がたまってそれをもとにしてカニや貝、ゴカイなどのエサが増え、それを食べてどんどん増えます。しかし、カニたちも増えすぎると、やがて死んでしまった時にくさってヘドロになります。ところが増えすぎる前にアシハラガニや鳥などに食べられてうまくバランスがとれているのです。こうして川に入った「汚れ」はやがて干潟の生き物たちの体の中に入って栄養になり、きれいになった水が海に流れ出ます。まるで「干潟」は海の「ろ過そうち」です。



最初に、大阪湾では自然の浜辺が大変少なくなったと話しましたが、たくさんの生き物が集まり、水をきれいにしてくれる「ろ過そうち」としての干潟が大阪湾にはほとんどないということなのです。

今、私たち人間は大切な干潟をこわしてきたことを反省しています。自然の浜辺をこわして作った場所に、工場や道路、マンションなどを建てていますが、これで皆さんの暮らしは便利になりました。しかし、流される「汚れ」はどんどん増えて、海は死にかけています。これではいけないと、ようやく人間の手で干潟を作って水をきれいにする取り組みがはじまっているのです。

でもこれで水がきれいになっても、ゴミがこんなにいっぱいあると危ないし、海に行く気にならないですね。ケガをするかもしれません。このゴミは大阪湾ですごく問題になっています。

この写真の鳥の死体には足に何かがからまっているのですが、これは何かわかりますか？

(小学生：糸です)

そうです。これは何の糸かといいますと、釣り糸です。捨てた釣り糸が鳥の足にからまって、飛べなくなり死んでしまったのです。こちらの写真は、海遊館にもかかりがあります。



これが原因でジンベエザメが死んでしまったのです。大きさで言いますと約12cm。こんな小さなものでジンベエザメが死んでしまいました。これは何かといいますと、「くし」です。くしの歯の部分が取れてしまって、柄の部分が残ったものです。これがジンベエザメのお腹の中から出てきたのです。死んでから解剖すると、おなかの中からこのくしが出てきたのです。海遊館に来る前に海で飲み込んだのではないかと思います。ジンベエザメは、水ごとプランクトンを吸い込んで食べますから、ゴミとして捨てられていたくしが浮いていて、プランクトンと一緒に食べてしまい、おなかの中で突き刺さってしまったと考えられます。

くしは、ホールの後ろに展示していますから、後で見てください。

このように、何気なく捨てられたゴミが動物を殺してしまうことがあるのです。ゴミはゴミ箱など決まった場所に捨てるように気を付けなければいけませんね。

最後のまとめになりますが、大阪湾は川から出る「汚れ」が栄養分となり、プランクトンが多い海、そのおかげ魚やエビ、タコなどがたくさんとれる海、というお話をしました。そんな豊かな海なのですが、「汚れ」が多すぎてプランクトンが増えすぎ、増えすぎたプランクトンの死体がヘドロとして海底にたま

って生き物がすみにくくなった。おまけに、水をきれいにする自然が用意してくれていたろそうちである「干潟」をこわしてしまった。ゴミもいっぱい海に近づきたくないし、動物もひがいを受けている。今、私たちはきれいで豊かな海と浜辺をとりもどそうとさまざまな取り組みを行っています。どんなことをやっているのかというと、

- ①「川に流す汚れた水を少なくしよう。」  
そもそも汚れが多すぎるのですから、みんなで汚れを出すのを少なくする取り組み。
- ②「川や海にゴミをすてないようにしよう。」  
これは当たり前のことですね。たまっているゴミをとりのぞくことも必要です。
- ③「水をきれいにするせつや干潟を作ろう」  
下水しり場を増やしたり、干潟を人工的に作って水をきれいにする取り組み。
- ④「海の底にたまったヘドロをとりのぞこう」  
特別な船を使って、ヘドロをすくい取る取り組み。

の中で、皆さんでもやれることが2つあります。1つは「汚れを出すのを少なくしよう。」ということです。汚れた水は工場からも出ますし、皆さんの家庭からも出ます。何か工夫することで汚れた水を減らすことをみんながやれば、大阪湾の汚れがだいぶ少なくなるのではないかと思います。「川や海にゴミを捨てないようにしよう。」というのは、皆さんの心がけ次第です。また、「海辺のゴミひろいをしよう」というようなイベントがあったら、ぜひ参加してみてください。この2つは皆さんができることです。汚れた水を出さない工夫については今日は詳しくお話する時間はありませんが、家族のみなさんとも話して考えてみてください。

最後になりましたが、皆さんはこれから海遊館を見学しますが、海遊館には世界の海にすんでいる生き物たちがいます。

今、世界中の海でも大阪湾と同じようなことがおこっています。「自分たちの地元の海を守る」、それが世界の海の生き物たちを守ることにもつながるのです。海遊館の生き物たちを見た時、そのことも考えてみてください。以上でお話を終わらせていただきます。ありがとうございました。



## 5.主催者挨拶

岩崎 勉（関西交通経済研究センター 理事長）



皆さんこんにちは、(公財) 関西交通経済研究センターの理事長をいたします岩崎と申します。どうぞよろしくお願い致します。

今日は、大阪港のクルーズ、上窪先生の「海の大切さや船員の仕事」、海遊館の北藤先生の「大阪湾の生物について」のお話を聞いて、私も大変勉強になりました。

皆さんは、勉強になりましたか。楽しかったですか？

私たちは、7月の「海の日」前後にこのような海に関する勉強会などを開催させていただいていますが、今年の「海の日」は7月のいつかわかりますか？

今年は7月18日で、7月の第3月曜日ですね。21回目のお祝いの日になりますけれども日本全国でこのような形でイベントなどを行っています。

今年は、大阪市教育委員会及び港区役所のご後援、ご協力をいただきまして、港区の、田中小学校、築港小学校、八幡屋小学校の5年生、6年生の皆様にお集まりいただきました。皆さん、本日は参加していただき、本当にありがとうございました。

本日、皆様に帽子をお渡しし着用していただいておりますが、帽子の前に「日本財団 海と日本PROJECT」と書いてあり、その横に日本財団のマークがついています。毎年、日本財団からこのようなイベントの応援をいただいております。町の中で、この日本財団のマークを見かけることができましたら、今日のことを思い出していただきたいと思います。

今日は、講師の先生方から海や船のお話を聞くことができたし、サンタマリアに乗船し、海上から街並みをみていただきました。また、これから海遊館の見学に行きますことから、これまで以上に身近に海の恵みや大切さなどを感じ取っていただければ大変ありがたいと思っています。

これから夏休みに入りますが、元気に、今まで以上に海に親しんでください。

最後になりますが、実行委員会の大阪港振興協会、大阪市港湾局、近畿旅客船協会、近畿内航船員対策協議会、近畿運輸局の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

そして、港区役所の旗副区長様にも駆けつけていただきました。先生方におかれましては、安全に引率をしていただきありがとうございました。

また、ラジオ関西の皆様には、神戸のイベントに引き続きまして、進行役をしていただきましてありがとうございました。

皆さんに最後にお願ひがあります。皆さんは、今日帰られましたら、今日のことを「お父さん」「お母さん」をはじめ家族にお話し、絵手紙（絵日記）に書いて、送ってください。お願いします。この後は、楽しく海遊館を見学してください。ありがとうございました。



6. 準備資料

①募集チラシ

(表面)

(裏面)

③当日のしおり (プログラム)

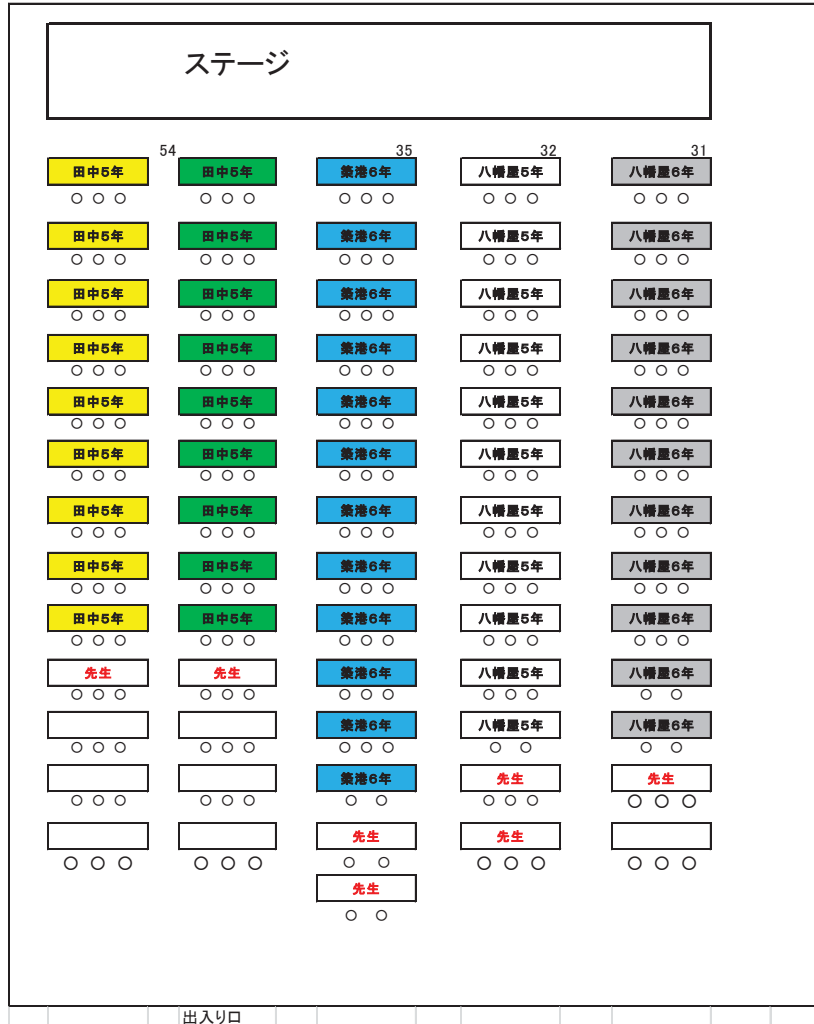
②参加者、スタッフ着用帽子

色		神戸関係		大阪関係		予備	合計
		数量	数量	数量	数量		
ホワイト(白)	小学生用	15	31	3	49		
ブラック(黒)	小学生用	15	33	3	51		
イタリアンレッド(赤)	小学生用	15	-	3	18		
ロイヤルブル(青)	小学生用	20	34	3	57		
デイジー(黄)	小学生用	15	27	3	45		
グリーン(緑)	小学生用	15	28	3	46		
アクア(水色)	小学生用	15	-	3	18		
オレンジ(橙)	教員用	12	14	4	30		
ターコイズ(薄い水色)	スタッフ用	15	15	0	30		
合計		137	182	25	344		



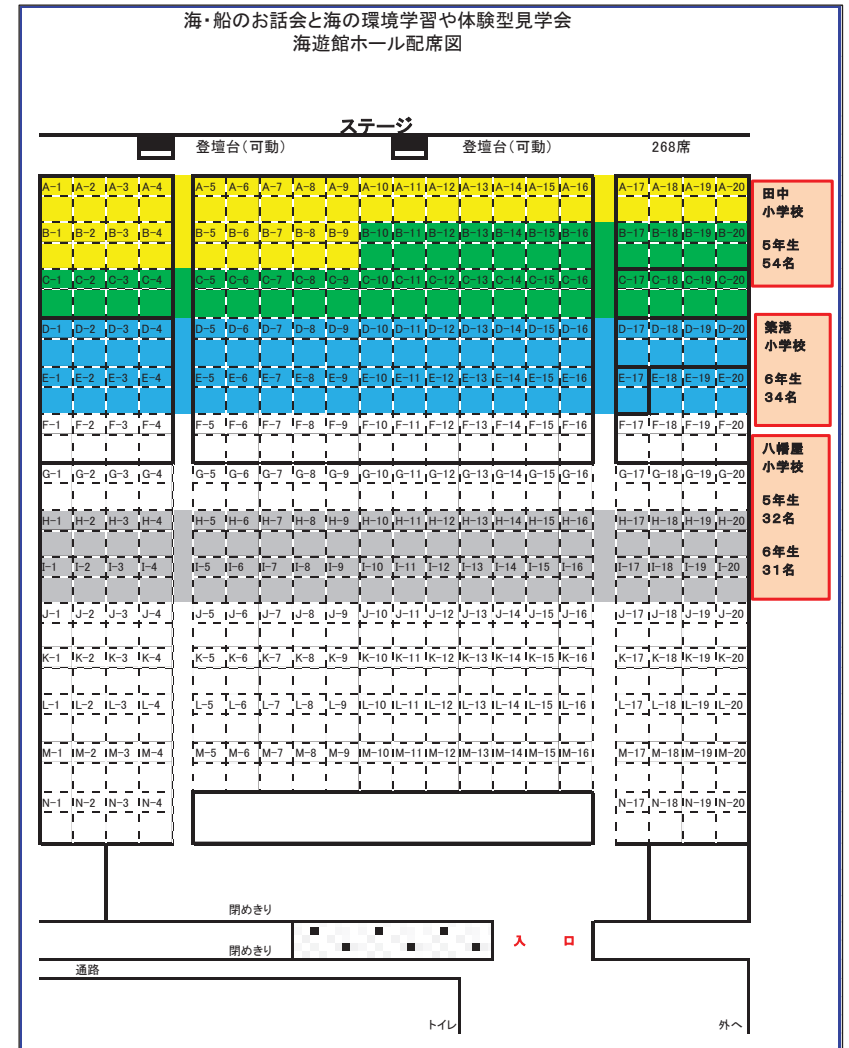
④天保山船客ターミナル座席図

天保山船客ターミナル座席配置図



⑤海遊館ホール座席図

海・船のお話と海の環境学習や体験型見学会  
海遊館ホール配席図



⑥サンタマリア見学要領

海・船のお話と海の環境学習や体験型見学会の開催

サンタマリア見学要領案

平成28年7月7日(木) 平成28年7月7日(木)

1. 実施日時  
サンタマリア船内

2. 実施場所  
田中小学校(5年) 54名  
築港小学校(6年) 35名  
八幡屋小学校(5年) 32名  
八幡屋小学校(6年) 31名

4. 船内見学会コース

A 船内見学(10分) → B 救命講義(10分) → C 船長講話(10分) → D ロープワーク(10分)

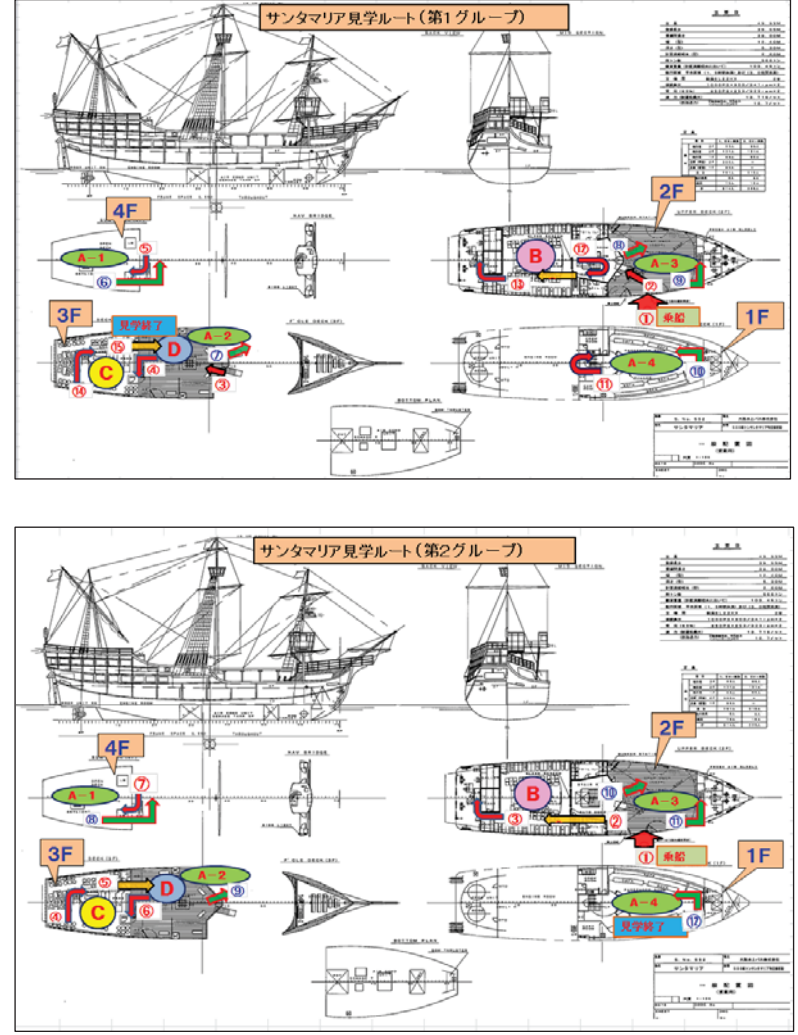
2Fデッキより乗船  
1F船室  
3F特別室  
3Fデッキ  
(雨天:2Fデッキ)

4F船内見学 → 3F見学様由→2F見学様由→1F見学(灯火、レーダー等備品)  
(救命浮環等) (消防設備等) (ロープ見本等)  
救命講義を2人組で装着体験  
海軍の重要性、サンタマリアや乗組員の仕事紹介等  
数種類のロープの結び方等の体験

10:50より一般客の乗船開始

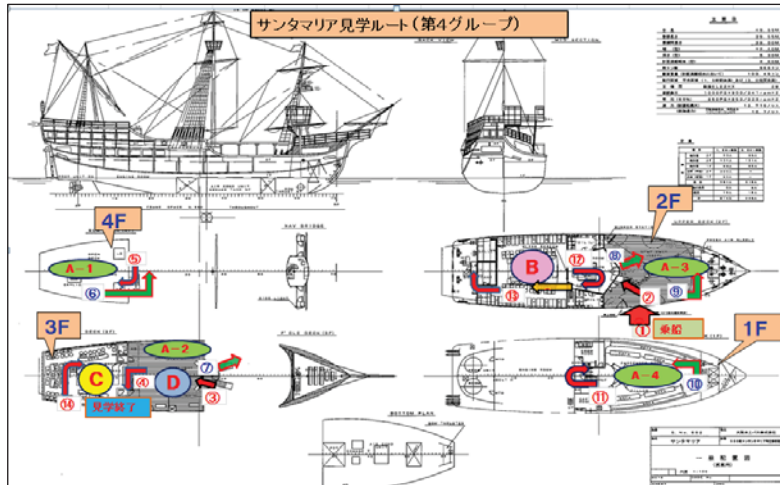
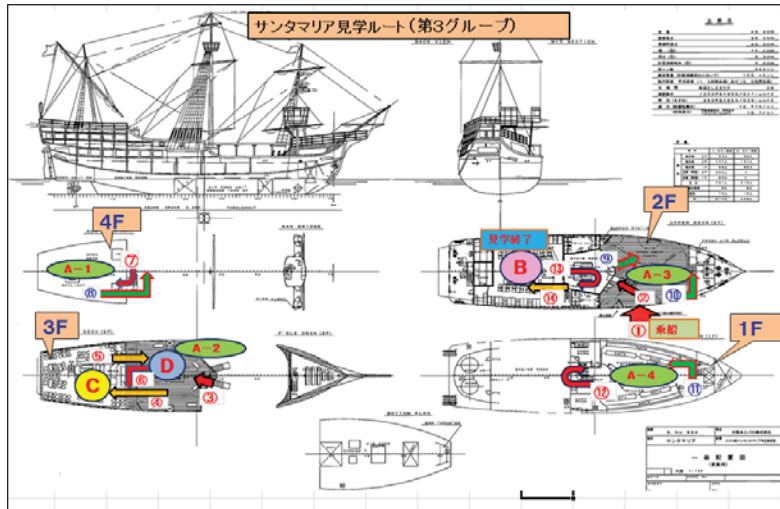
時間	10:25~10:35	10:10~10:20	9:55~10:05	9:40~9:50
11:00よりクルーズ	→ クイズラリー等	→ クイズラリー等	→ クイズラリー等	→ クイズラリー等
	→ クイズラリー等	→ クイズラリー等	→ クイズラリー等	→ クイズラリー等
	→ クイズラリー等	→ クイズラリー等	→ クイズラリー等	→ クイズラリー等
	→ クイズラリー等	→ クイズラリー等	→ クイズラリー等	→ クイズラリー等

⑦サンタマリア見学順路



⑧サンタマリア 探検問題

(5年生)



日時：平成28年7月7日(木)  
海・船のお話会と体験乗船見学会

サンタマリア号たんけん問題の答え(5年生)

( ) 小学校 5年組 名前 \_\_\_\_\_

サンタマリア号の船内を探検して、次の問題に教えてください。  
ヒントは、船内を探検すると説明文が書いてあります。わからない場合は船員さんに聞いてください。

- 第1問 海面から22.5メートルの高さがあり、サンタマリアの最後部に装備されているマストを何と  
うてしょうか？  
( ミズン ) マスト
- 第2問 船の航海に必要で、方位を測定する機械がありますが、その種類を二つ挙げてください  
( 磁気(じき)又は マグネット ) コンパス ( ジャイロ ) コンパス
- 第3問 夜間や視野の悪いときに、周りの船に自分の船の進む方向を知らせるために点けられている  
灯火を何とてしょうか？  
( 航海(こうかい) ) 灯
- 第4問 大型の帆船ほど長く、また、高速航行する船ほど上向きに設置される、サンタマリアの先端  
に取り付けられたマストを何とてしょうか？  
( パウスプリット )
- 第5問 サンタマリアの指揮を行う場所で、船長や航海士によって船の操船や見張りが行われる場所  
を何とてしょうか？  
( 船橋(せんきょう)又は 操舵室(そうだつ) 又は ブリッジ )
- 第6問 サンタマリアの船の大きさ(総トン数)は何トンてしょうか。  
( 566 ) トン
- 第7問 船が海を航海するとき使用される、海の地図のことを何とてしょうか。  
( 海図(かいず)又はチャート )
- 第8問 船が動くためのエンジンや、船内の電気を作る発動機などが備えつけられている部屋を何と  
いっててしょうか？  
( 機関(きかん) ) 室 又は ( エンジン ) ルーム
- 第9問 大航海時代に陸の見えない海原を船が航海する時、船の位置を調べる時に使う星や月  
の高さなどを計測するために使用される道具を何とてしょうか？  
( 六分儀(ろくぶんぎ) )
- 第10問 時計がなかった昔、船の中で時間を知らせるために使用した鐘を何とてしょうか？  
( 号鐘(ごうしょう) )

みなさん、サンタマリア船内の探検はできましたか？問題は難しかったかな？  
また、サンタマリアで探検をしてください。





### Ⅲ. 「海学び舎」あらかると啓発事業実行委員会等開催状況

- 第1回実行委員会 平成28年 6月14日(火)
- 第2回実行委員会 平成28年11月30日(水)
  
- 第1回神戸分科会 平成28年 6月27日(月)
- 第2回神戸分科会 平成28年10月24日(月)
  
- 第1回大阪分科会 平成28年 6月29日(水)
- 第2回大阪分科会 平成28年10月17日(月)

### 「海学び舎」あらかると啓発事業実行委員会規約(改正)

#### 【名称】

第1条 本会は、「海学び舎」あらかると啓発事業実行委員会(以下「実行委員会」という。)と称する。

#### 【目的】

第2条 実行委員会は、海洋国日本の国づくりや街おこしを担う次世代の小学生、中学生などの若者の皆さんに、海の大切さと海の魅力を知ってもらうことにより、海の恩恵に感謝し、併せて広く海洋についての理解と関心を深めてもらうための必要な事業を行うことを目的とする。

#### 【事業】

- 第3条 実行委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。
- (1) 海洋文化の発展、海に係る歴史等の修得を目的とした学習会及び体験会の実施
    - ・大阪港内、神戸港内及び大阪湾内クルーズの実施
    - ・海洋学習及び環境学習の実施 等
  - (2) 海の重要性を啓発出来るリーダーの養成
  - (3) 前2号に掲げるもののほか、前条の目的を達成するため必要な事項に関する事。

#### 【構成員】

第4条 実行委員会は、別表に掲げる団体等によって構成する。なお、新たな構成員への参画は、実行委員会の承認を得るものとする。

#### 【役員】

- 第5条 実行委員会に次の役員を置く。
- (1) 委員長 1名
  - (2) 副委員長 1名
  - (3) その他にオブザーバーを置くことができる。

#### 【役員の職務】

- 第6条 委員長は、実行委員会の会務を総理し、実行委員会を代表する。
- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

#### 【役員の選任】

- 第7条 実行委員会の委員長は、委員の互選により定める。
- 2 実行委員会の副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。

#### 【任期】

第8条 役員及び委員の任期は、実行委員会の目的が達成されたときまでとする。ただし、委員のうち機関、団体等の代表者であるものが当該機関、団体等の代表者でなくなった場合は、その後任者が前任者の残任期間を務めるものとする。

#### 【会議】

- 第9条 実行委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集し、委員長がその議長となる。
- 2 実行委員会の会議は、次に掲げる事項を審議し、議決する。
    - (1) 事業に関する開催計画
    - (2) 事業に関する予算及び決算
    - (3) 実行委員会規約の制定及び改正
    - (4) 前3号に掲げるもののほか、事業目的の達成に関する重要な事項
  - 3 実行委員会の会議は、委員の過半数の出席がなければ開会し、議決することができない。
  - 4 実行委員会の議事は、出席委員の過半数の同意をもって可決し、可否同数の場合は委員長がこれを決する。

#### 【分科会】

- 第10条 第3条各号に掲げる事項について、具体的な事業の検討を行い実施するため、必要に応じ実行委員会に分科会を置くことができる。
- 2 分科会の組織、運営その他必要な事項は、委員長が別に定める。

#### 【事務局】

第11条 実行委員会の事務を処理するため、(公財)関西交通経済研究センター内に事務局を置く。

#### 【解散】

第12条 実行委員会は、その目的が達成されたとき解散する。

#### 【雑則】

第13条 この規約に定めるもののほか、実行委員会に関し必要な事項は、委員長が実行委員会の会議に諮って定める。

附則 この規約は、平成27年6月12日から施行する。

附則 この規約は、平成28年6月14日から施行する。

「海学び舎」あらかると啓発事業実行委員会分科会規程（新設）

【趣旨】

第1条 「海学び舎」あらかると啓発事業実行委員会規約第10条の規定に基づき分科会の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

【所掌業務】

第2条 分科会は、「海学び舎」あらかると啓発事業実行委員会規約第3条に掲げる事業について具体的な検討を行うものとする。

【構成員】

第3条 分科会は、大阪分科会と神戸分科会とし、分科会委員は、実行委員会構成員等より分科会長が指名した者をもって組織する。

【分科会役員】

第4条 分科会に次の役員を置く。

- (1) 分科会長 1名
- (2) その他にオブザーバーを置くことができる。
- 2 分科会長は、大阪分科会は実行委員会委員長、神戸分科会は実行委員会副委員長とする。

【分科会役員の職務】

第5条 分科会長は、分科会を代表し、会務を総理する。

【会議】

- 第6条 分科会は、必要に応じて分科会長が招集し、分科会長がその議長となる。
- 2 分科会長は、必要に応じて関係者の出席を要請することができる。
- 3 分科会は、次に掲げる事項を審議し、議決する。
  - (1) 事業に関する開催計画の作成及び実施
  - (2) 事業に関する予算及び決算
  - (3) 前2号に掲げるもののほか、事業目的の達成に関する重要な事項

【事務局】

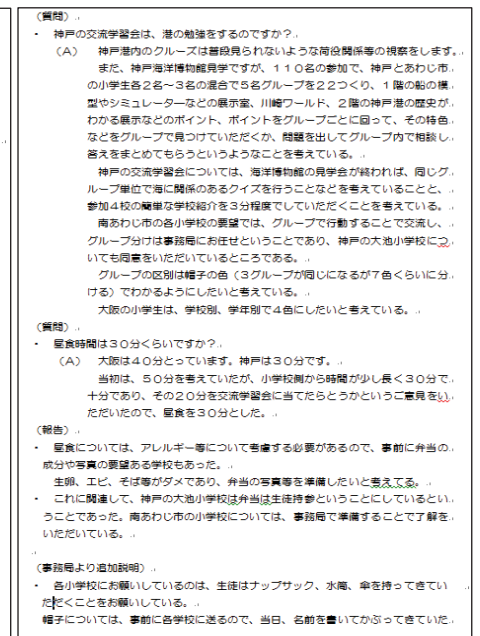
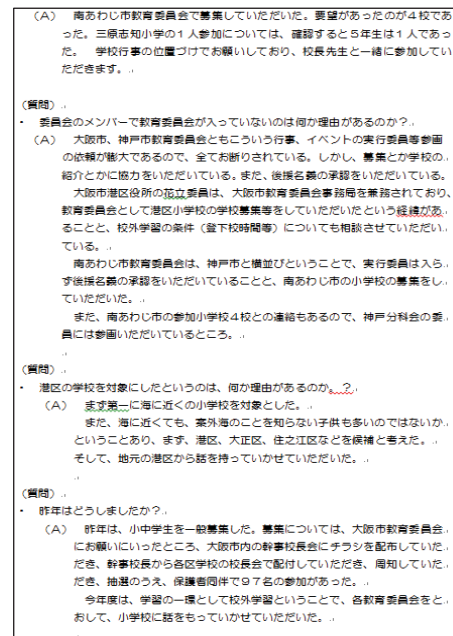
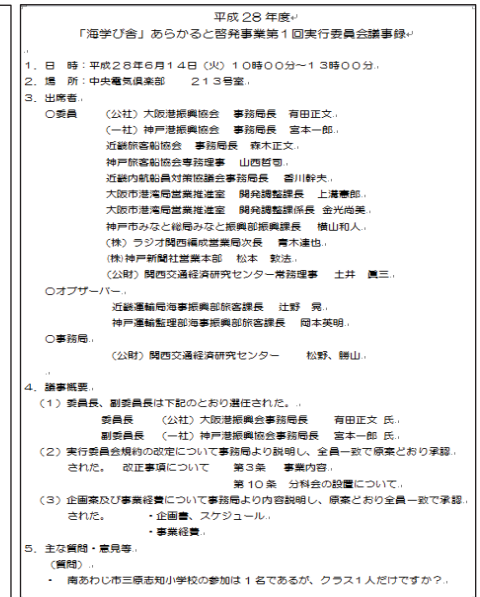
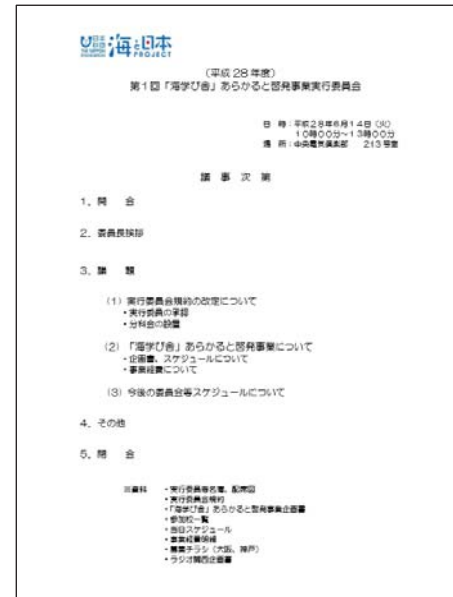
第7条 分科会の事務を処理するため、(公財)関西交通経済研究センター内に事務局を置く。

【雑則】

第8条 この規程に定めるもののほか、分科会に関し必要な事項は、分科会長が分科会の会議に諮って定める。

附則 この規程は、平成28年6月14日から施行する。

第1回実行委員会（平成28年 6月14日（火））





第2回実行委員会（平成28年11月30日（水））

多くこととしている。、

- ・ プレス発表について、近畿運輸局、神戸監理部、大阪市港局、神戸市みなと税局、を通じて公表していただきたい。、

6. 当日の進行について、

- ・ ラジオ関西により、初会、進行をさせていただくことの提案あり。、
- ・ 大阪、神戸とも記者等のお話を関係者等にインタビューする。また、参加者から、新しいことなどインタビューする。そして子供向け番組で放送したいと考えている。、
- ・ 事務局の対応、
- ・ 小学校に対する説明時にインタビューと写真についての話をさせていただいたところ、インタビューについては、保護者の了解をとる必要がある学校があった。、
- ・ また、写真は、個人が特定できるものは出さないように言われている。報告書に使用する写真関係は、各学校に一度確認したいと思っている。、

7. 事務局より下記提案をしたところ、全員了解していただいた。、

①第2回目の実行委員会の開催について、

実行委員会は、基本はこの会議室を考えているが、神戸開催する場合もあるので、ご承知いただきたい。、

②分科会の開催について、

分科会は、大阪は、大阪港振興協会の会議室、神戸は、神戸港振興協会の会議室、で開催することとしたい。、

③ 当日のスタッフについて、皆さんの機関でお手伝いいただける人数を後日で連絡していただきたい。、

④ 各委員で当日配付資料があればお知らせいただきたい。、

8. 配付資料

- ・ 実行委員等名簿、配席図、
- ・ 実行委員会規約、
- ・ 「海学びき」あらかると啓発事業企画書、
- ・ 参加校一覧、
- ・ 当日スケジュール、
- ・ 事業経費明細、
- ・ 募集チラシ（大阪、神戸）、
- ・ ラジオ関西企画書、

(第2回)

「海学びき」あらかると啓発事業実行委員会

日 時 平成28年11月30日(水)  
10時00分~13時00分  
場 所 中央職員会議室 214号室

議 事 次 第

1. 開 会
2. 出席者挨拶
3. 議 題
  - (1) 「海学びき」あらかると啓発事業について  
神戸、大阪での実施報告
  - (2) 今後のスケジュールについて
  - (3) 2017年度（平成29年度）事業計画の検討について
4. その他
5. 閉 会

※資料 → 実行委員等名簿、配席図  
→ 「海学びき」あらかると啓発事業企画書  
→ 当日のスケジュールについて

- ・ 企画の一つとして、神戸港、大阪港とも来年度は開催150年であるので、それにちなみ150年の歴史を勉強してもらうというのはいかがでしょうか。、
- ・ 例えば、150年前の神戸の景、大阪の港の写真を持ち寄り、手に持って上から見て、自分たちで感想などという風に盛り合わせ、子供たちもそれぞれの進歩を知るといふ形になり有益であると聞かれる。、
- ・ 150年間の写真と今の写真を見る方が分かりやすいのでは。、

(質疑)

- ・ 参加小学校の対象としての考え方として、海に隣り合っていない学校を重点的にということであるが、港区も山手も考えられるの。、
- (事務局) 募集地区はこれから検討することとする。ただ、港区の中でもあまりの海に接していない学校もある。、

(意見)

- ・ 大阪開催は150年ということもあり、この「海学びき」については、注目度も高くなる可能性がある。そうすると申し込みが多く、学校間で取り合いになる可能性もあるかもしれない。その辺が少し気になる。、
- ・ 学校募集は、3月には提供しないといけないので、企画を早くしないといけない。、実施日を決めて学校に提示することが必要である。、
- ・ 学校行事になると実行委員会に実施したいという意識があり、実行前から、経費は学校側が、連絡も学校側など仕事があるもので、学校としては、実施は8月の終わりから7月のはじめという期間である。、
- ・ 小学校からは、夏休み前1週間ほど参加できないといわれている。7月10日くらいまでにと書かれている。、
- ・ 学校行事となるとスケジュールとして朝8時30分から午後3時30分くらいまでが目安ということ。、
- ・ 大阪市の場合は、毎年フェリーでのクルーズを実施しているが、その少し違うプログラムで取り組むという形もあると聞かれる。、
- ・ 例えば、子供たちを対象にしたクルーズということ。4月は、船内で見学を兼ねたオリエンテーションを行い、乗船室、機関室、船内館を見る。駐車場又は乗降甲板でトレーラーやコンテナなどを観察してもらい、その存続の理由のところではクイズを出し、その答えを提示すると、船内に迎え合わせながら海の観察をする。、
- ・ もう1回は、具体的には、船のデッキからは、コンテナターミナルのそばで、乗降をしているところを見せたり、大阪港の新橋にコトコト入っている船の稼働状況を見せたりと合わせて、実際に自分たちの出したクルーズが最終的にそこに取り込まれているのだというのを知ってもらう。、
- ・ 学校側が実施したいとしたら、海上の海運館ホールもしくは、船客ターミナルで実施合わせとセラー一掃をするという形を組み合わせた。、
- ・ ということを書ければ、ちょっと、大阪市が主催やっている大人向けのクルーズとは

平成28年度  
「海学びき」あらかると啓発事業第2回実行委員会議事録

1. 日 時 平成28年10月30日(水) 10時00分~13時00分
2. 場 所 中央職員会議室 214号室
3. 出席者
  - 委員 (公社)大阪港振興協会 事務局長 有田正文、
  - (一社)神戸港振興協会 事務局長 高木一郎、
  - 近畿港航振協会 事務局長 森下正次、
  - 神戸新港振興協会事務局長 山田昭彦 (欠席)、
  - 近畿の港湾振興協会の事務局長 藤井裕夫、
  - 大阪市港局振興推進課 副課長 上原博樹、
  - 大阪市港局振興推進課 副課長 佐藤隆夫、
  - 神戸市みなと税務局みなと振興部副課長 横山和久(代理) 南村 千實、
  - (株)ラジオ関西制作事業部長 齊木謙也、
  - (株)神戸新聞社編集課長 松本 敦浩 (欠席)、
  - (公社)関西交通経済研究センター 実行理事 土井 眞三、
- オブザーバー
  - 近畿港航振協会の副会長 辻野 晃、
  - 神戸運輸振興協会の副会長 日本英博、
- 事務局
  - (公社)関西交通経済研究センター 松崎 朝山、

4. 議事概要

- (1) 「海学びき」あらかると啓発事業開始について、
- 神戸イベント、大阪イベントの開催について事務局より報告書に基づき説明し、委員からは賛同、意見質疑はなかった。
- 今後のスケジュールについて、資料に基づき説明、
- 事務局 返し、
- (3) 2017年度（平成29年度）事業計画の検討について資料に基づき説明、
- 大阪分科会及び神戸分科会から出た意見を説明、

5. 主な資料・意見等

(意見)

- ・ 大阪分科会では職員体験をしたらどうかという意見が出ているが、アイデアは面白い実現性はあると思われる。、
- ・ 一方、今年度の事業を拡大して実施するということに賛同、日本側国の船政が得られるのかもしれない。、
- ・ 今年度特筆するものとして一つとして、ラジオ関西さんが、当日の取材や後日のラジオ放送をさせていただいたことからメディアの協力をいただいたことがあげられる。

違う企画ができるのではないかと聞かれる。そうすると船乗人数も受け入れられるのではないかと聞かれる。、

ただ、船を借り上げる費用が発生する点、費用的な問題がある。、


- ・ フェリーでは、ブリッジ、機関室、乗降甲板などを見学できセミナーでのお話を聞くことができることである。、
- ・ 海運館とかファンタジアは結構面白いが、お金を払って見学できること、であり、船員さんのお話などはなかなか聞けないので、そういうことをするのが現実的だと思われる。、
- ・ 大阪と神戸の分科会それぞれ開催して2年度の企画を練るということはどうでしょうか。、
- ・ 企画では、航海とマスコットを通してそれぞれの企画を広くお伝えするということが、絶対に抜かしてはいけないことである。、

(事務局より)

- ・ 日本側国からの船政がなくなっても、今後における継続性について、考えていくことも必要である。、
- ・ 29年度については、事業を実施する方向で日本側国に対して活動申請したいと書かれている。よって、神戸、大阪それぞれ企画の打ち合わせをすることとする。、
- ・ 決定、実行委員会も継続していくこととしているので、実行委員の輪は、引き続きお願いしたい。次年度の手続きについては、新たに委員の推薦をさせていただきたい。、
- ・ 29年度前払申請は、3月に準備をおこなって企画していただきたいと思うので、企画作の専断力をお願いしたい。、

第2回神戸分科会（平成28年10月24日（月））

第1回神戸分科会（平成28年 6月27日（月））




「海学びき」あらかると啓発事業実行委員会  
第1回神戸分科会

日 時：平成28年6月27日（月） 10時00分～11時00分  
場 所：神戸港振興協会会議室

議 事 次 第

- 開 会
- 分科会長挨拶
- 議 題
  - 現在の準備状況報告
  - 神戸港クルーズ等タイムスケジュールの確認
  - スタッフ等役割分担について
  - 荒天等の対応について
  - その他



（第2回）  
「海学びき」あらかると啓発事業神戸分科会

日 時：平成28年10月24日（月） 14時00分～15時00分  
場 所：（一社）神戸港振興協会 会議室

議 事 次 第

- 開 会
- 委員長挨拶
- 議 題
  - 「神戸市、南あわじ市小学生の海に親しむ交流学習会」実施報告
  - 今後のスケジュールについて
  - 次年度事業について
- その他
- 閉 会

※資料 ・分科会名簿、  
・「神戸市、南あわじ市小学生の海に親しむ交流学習会」実施報告、  
・後半名簿、  
・今後のスケジュール等。

平成28年度「海学びき」あらかると啓発事業第1回神戸分科会議事録

- 日 時：平成28年6月27日（月）10時00分～11時00分。  
場 所：神戸港振興協会会議室。
- 出席者：
  - 委員 （一社）神戸港振興協会 事務局長 宮本 一郎、  
（一社）神戸港振興協会 幹事 森田 梨、  
神戸市観光協会専務理事 山西 哲郎、  
神戸市みなと情報みなの振興総務課長 横山 和久、  
南あわじ市教育委員会学校教育課主任幹事 山田 高剛、  
（株）ラジオ関西 編集実業部 次長 青木 謙也、  
（株）神戸新聞社営業本部 松本 敦志、  
神戸ベイクルーズ事業部 平橋 隆一、  
神戸市立大谷小学校 校長 中本 綱志、  
神戸運輸整備部同業部観光課課長補佐 松村 博英、  
（公財）関西交通経済研究センター 常務理事 土井 眞二、
  - 事務局 （公財）関西交通経済研究センター 松野、藤山。
- 議事概要
  - 7月1日（金）実施予定のタイムスケジュールを確認
    - 当日の行程の確認
      - 当日の行動は、午前の神戸港クルーズは各小学校別に行動し、担任が引当する。
      - 午後の交流学習会には、5校混在の班で行動する。（1班5名で22班）
    - 各小学校の出発及び帰りの時間を確認
      - 灘小学校は7時45分発着のバスで出発。
      - 東文小学校は8時00分市民交流センターよりバスで出発。
      - 小中学校と若狭小中学校は、8時00分三原庁舎よりバスで出発。
      - 大池小学校は、8時30分学舎よりバスで出発。
    - 各小学校の参加人数の確認
      - 各ものをあわせて、計画通りのタイムスケジュールに対し般意見はなかった。
  - 6月27日現在の準備状況の確認。
    - 各小学校の参加者の親子の数と色分けを確認
      - 5校混在で5名1班で22班作成し、班ごとに色分けした標子を届ける。
      - 各小学校で、名刺サイズの大きさに参加者の学校名と氏名（ひらがなで苗字のみ）を作成し、当日贈りつける。（名刺ケースは事務局で準備）
      - 当日の郵付資料の取崩（140セット準備）。


- スタッフの役割分担と各委員関係のスタッフ人数を確認。
  - スタッフ18名確定。
- 荒天時の対応。
  - 前日、6月30日の午前中に事務局より南あわじ市教育委員会及び各小学校及びスタッフに連絡する。
  - 実施を決定した場合、船が通航できない場合は、海洋博物館の見学と交流学習会を実施する。
  - 中止した場合は、各小学校のスケジュールもあり順延ではなく中止とする。
- バス脱け、船酔い、クガなど具合が悪くなった小学生のため、看護師1名配置する。

平成28年度「海学びき」あらかると啓発事業  
第2回神戸分科会議事録

- 日 時：平成28年10月27日（月）10時00分～11時00分。  
場 所：神戸港振興協会会議室。
- 出席者：
  - 委員 （一社）神戸港振興協会 事務局長 宮本 一郎、  
（一社）神戸港振興協会 幹事 森田 梨、  
神戸市みなと情報みなの振興総務課長 横山 和久、  
南あわじ市教育委員会学校教育課主任幹事 山田 高剛、  
（株）ラジオ関西 編集実業部 次長 青木 謙也、  
（株）神戸新聞社営業本部 松本 敦志、  
神戸市立大谷小学校 校長 中本 綱志、  
神戸運輸整備部同業部観光課課長 堀本 英明、  
（公財）関西交通経済研究センター 常務理事 土井 眞二、
  - 事務局 （公財）関西交通経済研究センター 松野、藤山。
- 議事概要
  - 7月1日（金）実施した「神戸市、南あわじ市小学生の海に親しむ交流学習会」の報告を事務局より行ったところの感想や意見をいただいた。
    - ××交流学習会が以外と面白かったと思う。盛り上がった。
    - ・違う学校の子供たちがいるというのは、とても件良く報告して学習していた。
    - ・小学校として、費用面で感謝している。子供たちも楽しんでいた。3年生で一回神戸港遊びをしているが、もう一度という形で出席したことはよかった。
    - ・同じ学年だけれども違う友達や違う学校の子たちと組んで一緒にできたことは、なかなか無い体験より行ったところの感想や意見をいただいた。
    - ・一方通行で自分のみが見えるのではなく、自分たちを見て聞いたりとか、意見があると、家に帰ってから手紙とかということで、乗り遅りでも、いろんな観点からの感想ができた。また、なかなか面白い授業ができて、今後、続けていってほしい。
    - ・お土産というところは海に囲まれているというイメージはあるが、今回の4校中3校は海に囲まれていない学校で暮らしている子供たちであった。そういう子供たちが1日、海に親しむということで、興味をもって楽しく過ごすことができた。地元バス会社を手配いただいたこともあって、往復ともスムーズに運行していただいた。
    - ・神戸港の規模の大きさを初めて見る子供ばかりであり、クルーズを通してそれが実感でできた。

- 普段、船に乗ることが少ない子供たちがいたので、数名に船酔いの症状があったようだが、看護師さんにより適切な対応をしていただいたことはありがたかった。
- プログラムについては、海を身近に感じられる内容がよかった。神戸港の大きさの美観でできるプログラムであった。
- 班分けのために親子の色分けしたということでも、互いに一体感を味わうことができてよかったことと乗客もよかったです。
- 子供たちに自校について紹介する機会を用意していただき、自分たちのことを紹介できて交流につながったと思う。
- クイズの内容や音響などを工夫されており、興味をもって子どもたちが取り組んでいた。
- 今年度今後のスケジュールを説明したところ、特段の意見はなかった。
- 次年度事業の在り方について検討したところ、次の意見があった。
  - ・学校の選定については、海のない小学校を選定すること出来るだけ早く計画すること。
  - ・神戸市小学校3年生は神戸港を見学することから、3年生が神戸港にくる際に今年体験した5年生が関わるような形、すなわち、クルーズの特典やお手紙をするなど、新6年生が3年生をサポートする。
  - ・昨年度の大学生を運営スタッフとして入ってもらう。
  - ・大阪でも意見があったが、乗客体験ができればと考える。
  - ・申請の時期というが、学校への公募は春休みの方がよいと考える。
  - ・学校では、翌年に年間の計画が決まってくるのが2月、3月あたりであるので、年度に入ってしまうとびしょっと予定が決まっている状況。
  - ・新学期のメニューに取込むのであれば、3月の終わりにまでに計画を提示する方がよい。
  - ・神戸についてはもう1校くらい追加していただいてもいいのではないかと。
- 事務局より、
  - ・違う学校の子供たちが一緒に楽しく体験しながら学ぶということが校外学習の一つの狙いであると思うので、今後どのようなやりかたを考えたとしても、同じ小学校でもいいのか、また、山の小学校でもいいのか、いろんなバリエーションが出てくるが、皆さんにいろんな知恵を出していただければ、来年からの申請、若しくは8月の申請に際して合うように形を作っていくといいと語っています。

第1回大阪分科会（平成28年 6月29日（水））


  
 「海学び会」あらかると啓発事業実行委員会
   
 第1回大阪分科会
   
 日 時：平成28年6月29日（水）
   
 10時00分～11時00分
   
 場 所：大阪港振興協会会議室
   
 議 事 次 第
   
 1. 開 会
   
 2. 分科会長挨拶
   
 3. 議 題
   
 (1) 大阪港クルーズ等タイムスケジュールの確認
   
 (2) 現在の準備状況報告
   
 (3) スタッフ等役割分担について
   
 (4) 荒天等の対応について
   
 (5) その他

平成28年度 「海学び会」あらかると啓発事業第1回大阪分科会議事録
   
 1. 日 時：平成28年6月29日（水）10時00分～12時00分。
   
 2. 場 所：（公社）大阪港振興協会 会議室 第一大阪港ビル7階。
   
 3. 出席者。
   
 ○委員。
   
 （公社）大阪港振興協会 事務局長 有田 正文、佐古次長、
   
 近畿旅客船協会 事務局長 森本 正文、青山 剛志、
   
 近畿内航船員対策協議会 事務局長 香川 幹夫、
   
 大阪市港海運業推進室開発調整課 金光 尚美、岡山 雅也、
   
 大阪市港区役所教育担当課長 花立 郁世也、
   
 (株)ラジヲ関西 福成営業局長 青木 達也、
   
 (株)神戸新聞社営業本部 松本 毅法、
   
 大阪水上バス㈱ 取締役 大江 幸弘、
   
 近畿運輸局海事振興部旅客課長補佐 寺地 健二、
   
 (公財)関西交通経済研究センター常務理事 土井 眞三、
   
 ○事務局。
   
 (公財)関西交通経済研究センター 松野、藤山、
   
 4. 議事概要。
   
 (1) 7月7日（木）実施予定のタイムスケジュールを確認。
   
 ①当日の行程の確認。
   
 ・当日の行動は、各小学校別クラス別に行動し、担任が引導する。
   
 ・天王山前ターミナル、海遊館ホールの混雑配座を説明。
   
 ・サンタマリア見学要領の説明。
   
 ②各小学校の出席及び帰りの時刻を確認。
   
 ・各小学校とも午前10時45分出席（田中小）（帰りはバス、感謝バスは徒歩）
   
 ・海遊館見学後、各小学校は学校に帰り、学校で解散する。
   
 ③各小学校の参加人数の確認。
   
 ④その他をとおして、計画通りのタイムスケジュールに対し般見届はなかった。
   
 (2) 6月29日現在の準備状況の概報。
   
 ①各小学校の参加者の種々の別と色分けを確認。
   
 ・田中小学校5年生1組：黄色、5年生2組：緑色
   
 ・藤原小学校6年生：青色
   
 ・八幡堂小学校5年生：白色、6年生：黒色。
   
 ②当日の配付資料の確認 等。

第2回大阪分科会（平成28年10月17日（月））

（第2回）
   
 「海学び会」あらかると啓発事業大阪分科会
   
 日 時：平成28年10月17日（月）
   
 10時00分～11時00分
   
 場 所：（公社）大阪港振興協会 会議室
   
 第一大阪港ビル7階。
   
 議 事 次 第
   
 1. 開 会
   
 2. 委員長挨拶
   
 3. 議 題
   
 (1) 「海・船のお話と海の環境学習や体験型見学会」実施報告
   
 (2) 今後のスケジュールについて
   
 (3) 次年度事業について
   
 4. その他
   
 5. 閉 会
   
 ※資料
   
 ・分科会名簿。
   
 ・「海・船のお話と海の環境学習や体験型見学会」実施報告。
   
 ・給付紙集

(3) スタッフの役割分担と各委員関係のスタッフ人数を確認。
   
 ・スタッフ21名確定。
   
 (4) 荒天時の対応。
   
 ・前日、7月6日の午前中に事務局より各小学校及びスタッフに連絡する。
   
 ・実施を決定した場合、船が運航できない場合は、海洋学習、環境学習、海遊館見学会は実施する。
   
 ・中止した場合は、各小学校のスケジュールもあり順延ではなく中止とする。
   
 (5) 船酔い、ケガなど具合が悪くなった小学生のため、看護婦1名配置する。

平成28年度。
   
 「海学び会」あらかると啓発事業第2回大阪分科会議事録。
   
 1. 日 時：平成28年10月17日（月）10時00分～12時00分。
   
 2. 場 所：（公社）大阪港振興協会 会議室 第一大阪港ビル7階。
   
 3. 出席者。
   
 ○委員。
   
 （公社）大阪港振興協会 事務局長 有田 正文、
   
 近畿旅客船協会 事務局長 青山 剛志、
   
 近畿内航船員対策協議会 事務局長 香川 幹夫、
   
 大阪市港海運業推進室開発調整課 金光 尚美、
   
 大阪市港区役所教育担当課長 花立 郁世也、
   
 (株)ラジヲ関西 福成営業局長 青木 達也、
   
 (株)神戸新聞社営業本部 松本 毅法、
   
 大阪水上バス㈱ 取締役 大江 幸弘、
   
 近畿運輸局海事振興部旅客課長 辻野 晃、
   
 (公財)関西交通経済研究センター常務理事 土井 眞三、
   
 ○事務局。
   
 (公財)関西交通経済研究センター 松野、藤山、
   
 4. 議事概要。
   
 (1) 7月7日（木）実施した「海・船のお話と海の環境学習や体験型見学会」の報告を事務局より行った。
   
 (2) 今年度今後の実施スケジュールを説明したところ、特段の意見はなかった。
   
 (3) 次年度事業の在り方について検討したところ、次の意見があった。
   
 ・内容として、子供に職業体験を通じて、お金儲け、そのお金を使うなど世の中の仕組みを通じた社会勉強。
   
 例として、サンタマリアの船員の仕事、海遊館職員として働く、パン作り等、
   
 ・自分の住んでいる町の観光案内のガイドを小学生生活学年にする。例えば、大阪市港区であれば、赤レンガ倉庫や遊艇等の観光地等の案内。
   
 ・今年度体験した5年生が、来年の5年生のリーダー役となって教える。
   
 ・学校交流を通じて、わが町の自慢紹介など実施。
   
 ・海の役割、重要性等を大学生が教える小大連携。



IV. マスメディア記事

【実施日：7月1日】 海と日本プロジェクト 神戸市・南あわじ市小学生の海に親しむ交流学習会					
No.	掲載媒体	掲載・発行日時	媒体種別	番組名・紙面等	備考
1	日刊CARGO	6月29日	新聞	日刊	
2	日本海事新聞	7月7日	新聞	日刊	
3	海事プレス	7月12日	新聞	日刊	
4	ラジオ関西	7月10日	ラジオ放送	王様ラジオキッズ	放送時間 14:07~14:17
5					
【実施日：7月7日】 海と日本プロジェクト 海・船のお話し会と海の環境学習や体験型見学会					
No.	掲載媒体	掲載・発行日時	媒体種別	番組名・紙面等	備考
1	日刊CARGO	6月29日	新聞	日刊	
2	大阪市港湾局	6月27日	web	大阪市広報	
3	海事プレス	7月12日	新聞	日刊	
4	日本海事新聞	7月13日	新聞	日刊	
5	ラジオ関西	7月17日	ラジオ放送	によっきによっきラジオ!	放送時間 12:20~12:30

日刊CARGO (平成28年6月29日)

**海と船の体験 イベント開催**  
 大阪府港湾局、神戸市みなと局など主催の「海と日本プロジェクト」の助成を受けて、7月1日、神戸市と南あわじ市の小学生計110人を対象に、神戸市南あわじ市小学生の海に親しむ交流学習会を開催する。神戸港の遊覧船から港を巡視後、神戸海洋博物館を見学し、交流学習会を行う。

同日には大阪港で大阪市の小学生計154人を対象に「海と日本プロジェクト」の環境学習や体験型見学会を開催する。遊覧船で大阪港を巡視後、海産物学習と福遊館の海の生物観察会を行う。

「海学び舎」あらかると実行委員会、近畿旅客船協会、神戸旅客船協会、近畿内航船員会、近畿交通経済研究センター(事務局担当)などで構成する。

当日は午前中に観光船「ロイヤルプリンセス」(414総トン、神戸ベイクルーズ運航)に乗船。船内では、神戸港振興協会の森田潔参事が港施設などを解説した。また宮本一郎専務理事は「帰宅したら家族に神戸港で体験したことを話して

神戸市を主編、大阪府を副編、近畿交通経済研究センター(事務局担当)などで構成する。

当日は午前中に観光船「ロイヤルプリンセス」(414総トン、神戸ベイクルーズ運航)に乗船。船内では、神戸港振興協会の森田潔参事が港施設などを解説した。また宮本一郎専務理事は「帰宅したら家族に神戸港で体験したことを話して

日本海事新聞 (平成28年7月7日付)

関西の小学生に海洋への理解と関心を深めてもらう事業を展開している「海学び舎」あらかると実行委員会」は1日、神戸港で「神戸市・南あわじ市小学生の海に親しむ交流学習会」を開き、両市の小学校5校から5年生109人と教諭が参加した。この学習会事業は、日本財団が取り組む「海と日本プロジェクト2016」の助成を受けたもの。

実行委は、神戸港振興協会、神戸市みなと局、神戸旅客船協会、大阪港振興協会、大阪市港湾局、近畿旅客船協会、関西交通経済研究センター(事務局担当)などで構成する。

当日は午前中に観光船「ロイヤルプリンセス」(414総トン、神戸ベイクルーズ運航)に乗船。船内では、神戸港振興協会の森田潔参事が港施設などを解説した。また宮本一郎専務理事は「帰宅したら家族に神戸港で体験したことを話して

「海学び舎」あらかると実行委  
**小学生ら100人 海に親しむ**  
**神戸で「交流学習会」**



くたさいなど子どもたちを呼び寄せた。船上からは三菱重工業や川崎重工業の造船所、ポーターランドや六甲アイランドに設置されたガントリークレーンなどを見学。フェリーターミナルに停泊中の内航フェリーを熱心に観察していた。

午後には、神戸海洋博物館(カワサキワールド併設)の展示品に関する問題を解きながら、同博物館を見学。その後、同館ホールに集まり各校の紹介や神戸港まつつわるクイズ大会が行われた。

実行委では、7日にも大阪市内の小学生約150人を招き、観光船に乗船して大阪港などを見学する事業を行う予定。

交流学習会で「ロイヤルプリンセス」乗船前に記念撮影する小学生

海事プレス 2016年7月12日(火) 第三種郵便物認可

### 神戸港・大阪港で小学生が体験イベント

次世代を担う小学生に広く海洋について理解と関心を深めてもらうことを目的としたイベントが神戸港と大阪港で開催された。日本財団の助成事業。主催は、「海学び舎」あらかると啓発事業実行委員会。神戸市みなと総局、大阪市港湾局、神戸港振興協会、大阪港振興協会などで構成し、事務局は関西交通経済研究センター。

神戸港では1日に実施。南あわじ市4校の5年生57人、神戸市1校の5年生52人、その他教員関係者など総勢141人が参加した。遊覧船「ロイヤルプリンセス」に乗船し、神戸港振興協会の森田潔理事が解説。ポートアイランドや六甲アイランドを巡り、ガントリークレーンの荷役風景など間近に見たり、川崎重工神戸造船所で建造中の潜水艦を見たりした。その後、神戸海洋博物館と川重の企業ミュージアム「カワサキワールド」を見学し、博物館内で各校が交流した。

大阪港では7日、大阪市内の3校5年生86人、6年生65人、その他教員関係者など総勢189人が参加した。遊覧船「サンタマリア」に乗船し、ロープワーク、救命胴衣の着用体験など実施。大阪港内をクルーズ体験した。その後、近畿内航船員対策協議会の上種良和会長が船や海について講演。大阪市の水族館「海遊館」で大阪湾の生物について学習した。



神戸港での記念撮影



大阪港での記念撮影

日本海事新聞 2016年(平成28年)7月13日(水曜日) 第三種郵便物認可

## 海と船…その迫力に歓声

### 大阪港で体験型見学会 小学生ら160人参加

「海学び舎」あらかると実行委

関西の小学生に海洋への理解と関心を深めてもらう事業を展開している「海学び舎」あらかると実行委員会は7日、大阪港で「海・船のお話と海の環境学習や体験型見学会」を開いた。この見学会は、政府と日本財団が取り組む「海と日本プロジェクト2016」の一環として行われたもの。当日は、近隣の小学校3校から5、6年生152人と教員14人が参加し、港を船から見学するなど体験学習を楽しんだ。

大阪港天保山停船ターミナルに集合した小学生らを前にして、同実行委員会の有田正文・大阪港振興協会事務理事は「船や船舶、大阪湾の海洋生物などを学んでください」と呼びかけた。その後、子どもたちは帆船型観光船「サンタマリア」(566総トン、大阪水上バス運航)に乗船。船内では造船社長から同船の構造について説明を受けたほか、ロープワークや救命胴衣の着用の仕方について学んだ。また船上から取組の国際フェリーターミナルやコンテナターミナルで荷役中の外航コンテナ船などを見学。行き交う内航貨物船、タグボートなども近くから見え、その迫力に歓声を上げていた。

午後からは、ターミナルで近畿内航船員対策協議会の上種良和会長(田淵雄雄副会長)が「海の大切さと船員の仕事」をテーマに講演。その後、船遊館に移動して、船内を見学するとともに同館担当者から大阪湾の生物について学んだ。



「サンタマリア」に乗船する前に記念撮影する小学生ら



2016年度(平成28年度)日本財団申請事案  
(海と日本プロジェクト2016サポートプログラム)

## 「海学び舎」あらかると啓発事業

企画書

平成28年6月

公益財団法人 関西交通経済研究センター

## 「海学び舎」あらかると啓発事業

### 【実施目的】

海洋国日本の国づくりや街おこしを担う、次世代の小学生の皆さんに、海の大切さと海の魅力を知ってもらい、海の恩恵に感謝し、併せて、広く海洋についての理解と関心を深めてもらうことを目的に、2015年度に引き続き大阪港及び神戸港を中心にそれぞれ次の事業を実施する。

- 1) 大阪港を拠点として、小学生高学年を対象に、大阪港を含めた海洋生物の生態系、絶滅品種などの学習を通して海洋環境の大切さを学ぶ。  
また、普段見ることができない旅客船舶内の見学、船員さんの仕事の役割や重要性などを学習することと併せ、海から見る、いつもとは違う目線から大阪港や沿岸の街並みなどを体感することにより、広く海に関する知識の醸成を図る。
- 2) 大阪湾岸の神戸市小学生と南あわじ市小学生を対象に、海から神戸港を視察し、行き交う船舶や陸上施設等を学習し、より一層海への理解を深めて頂く。  
また、神戸海洋博物館において、神戸の海、船、港の過去、現在、未来を体験学習することと併せ、海に親しみ、海洋環境を守ることの重要性を考えるなどを目的に交流学習会を開催する。

### 【実施計画】

#### 1) 海・船のお話会と海の環境学習や体験型見学会の開催

1. 実施場所 大阪港天保山岸壁及び大阪港内
2. 実施概要
  - (1) 実施日時 平成28年7月7日(木)
  - (2) 実施内容

##### ①大阪港内クルーズ

- 〈1〉旅客船舶  
「サンタマリア」(566G/T、定員791人、大阪水上バス㈱)
- 〈2〉概要
  - ・オリエンテーション：船内説明等(特別室)
  - ・船内探検：船内経路に関所を設け、海に関するクイズを解きゴールを目指す。

##### ・大阪港内クルーズ



##### サンタマリア



##### ②海洋学習

- ・会場：天保山船客ターミナル会議室
- ・テーマ：海の大切さと船員の仕事(仮)
- ・講師：近畿内航船員対策協議会  
会長 上窪 良和 氏

##### ③環境学習の実施

- ・会場：海遊館ホール
- ・内容：大阪湾の生物について
- ・講師：海遊館飼育展示部普及交流チーム  
副参事 北藤 真人 氏

##### ④海の生物観察

- ・海遊館の見学を通じ、海の生物と触れ合ったり観察することにより、より深く海に関心を抱いてもらう。

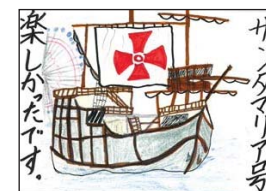
##### 海遊館



##### 触れ合い風景



- (3) 参加の皆さんから、見学や学習したことで興味があったこと、体験した事など印象に残ったことを「海学び舎絵手紙」(はがきサイズ)として当センター宛てに提出していただく。  
その内容に応じて沿岸市町村や海事関係者などに転送し、励ましや御礼の返事を投函していただく。





(4) 絵手紙展示

①絵手紙の掲示依頼

- ・実行委員等参画機関に掲示依頼する。
- ・参加小学校の掲示板に掲示依頼する
- ・サンタマリア、海遊館などテーマ関係先対象者に掲示依頼する。

②優秀作品の表彰

実行委員会メンバーにより優秀作品を選定し、表彰状を授与する

3. 参加者

①小学高学年（153名）

- ・大阪市立八幡屋小学校 6年生 31名、5年生 33名
- ・大阪市立築港小学校 6年生 35名
- ・大阪市立田中小学校 5年生 55名

②大学生

2015年度参加した大学生を中心にグループリーダーとして、小学生等に対し海の大切さや重要性を教育することや質問等に対応していただく。

4. 大阪港内クルーズコース



天保山岸壁



港大橋



5. 当日の行程

平成28年7月7日(木)

08:30	スタッフ集合(天保山船客ターミナルと小学校に分かれる)
08:30	各小学校集合
08:45	天保山船客ターミナルに向け出発 貸し切りバス
09:00	天保山船客ターミナル着 受付 名簿チェック
09:10	オリエンテーション(天保山船客ターミナル会議室) ・実行委員長挨拶 ・当日のスケジュール及び注意事項説明
09:25	サンタマリアへ移動(徒歩)
09:30	サンタマリア前で集合写真
09:40	サンタマリア乗船 ・船内見学(船長挨拶、乗組員紹介、注意事項含む) ・大阪港内クルーズ
11:45	下船
12:00	～12:40
	昼食 天保山船客ターミナル会議室
12:45	海洋学習(天保山船客ターミナル会議室)
～13:15	海の大切さと船員の仕事 近畿内航船員対策協議会 上窪会長
13:20	海遊館に移動(徒歩)
13:30	海遊館前記念写真
13:40	海遊館ホール着席
13:40	環境学習
～14:10	海の環境、海洋生物と関係のお話
14:10	海遊館見学
～15:10	
15:10	海遊館発(バス) 貸切バスで各小学校へ(解散)

## 2) 神戸市、南あわじ市小学生の海に親しむ交流学習会の実施

1. 実施場所 神戸バイクルーズ「ロイヤルプリンセス」にて神戸港内クルーズ  
神戸港神戸海洋博物館ホール

### 2. 実施概要

(1) 実施日時 平成28年7月1日(金)

### (2) 実施内容

#### ①神戸港内クルーズの実施(約90分)

##### ・使用船舶

神戸バイクルーズ「ロイヤルプリンセス」

総トン数：414G/T(トン)

旅客定員：500名

##### ・コース

神戸中突堤発→ポートアイランド→六甲アイランド

→神戸空港沖→神戸中突堤着(神戸、南あわじ市小学校)

##### ・海から見た神戸港視察

##### ・行き交う船舶や陸上施設等の学習

いつもと違う視点として、海上から神戸港とその沖合の楽しみなどを再発見してもらおう。

造船所やガントリークレーンが林立し、接岸する巨大なコンテナにコンテナを積み込む作業などを身近で観察したり、忙しく行き来する内航貨物船、タグボート、レストラン船など海で活躍する各種船舶の視察を通し日頃体験できないことを体感実現する。

#### ②神戸海洋博物館見学

・神戸の海、船、港の過去、現在、未来等について学習する。

#### ③交流学習会の開催

・会場 神戸海洋博物館ホールでの学習

・内容 海に親しみ、海洋環境を守ることの重要性を考えるなどを目的に交流学習会を開催。



神戸海洋博物館

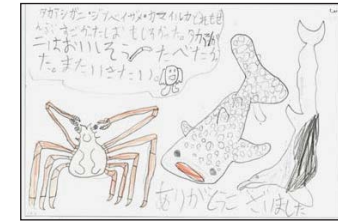


### 「ロイヤルプリンセス」



(3) 参加の皆さんから、見学や学習したことで興味があったこと、体験した事など印象に残ったことを「海学び舎絵手紙」(はがきサイズ)として当センター宛てに投函していただく。

その内容に応じて沿岸市町村や海事関係者などに転送し、励まみや御礼の返事を投函していただく。



### (4) 絵手紙展示

#### ①絵手紙の掲示依頼

・実行委員等参画機関に掲示依頼する。

・参加小学校の掲示板に掲示依頼する

・神戸海洋博物館、使用船「ロイヤルプリンセス」などテーマ関係先対象者に掲示依頼する。

#### ②優秀作品の表彰

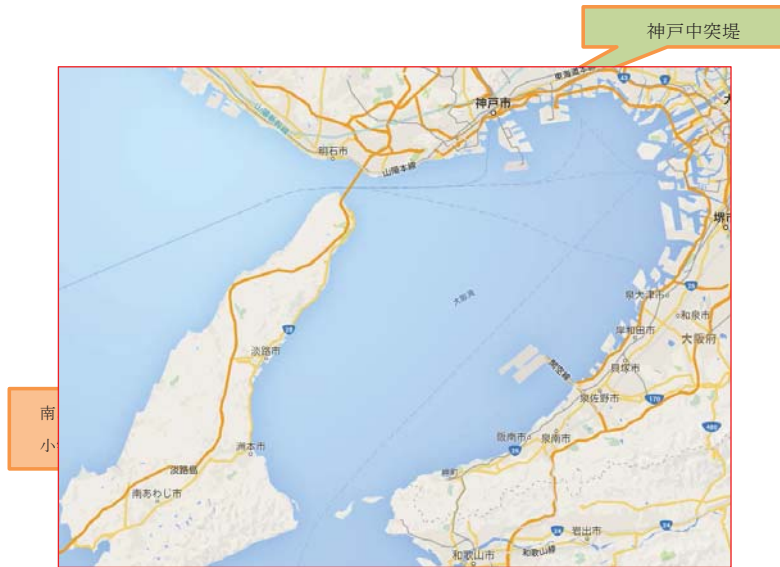
実行委員会メンバーにより優秀作品を選定し、表彰状を授与する

### 3. 参加者(110名)

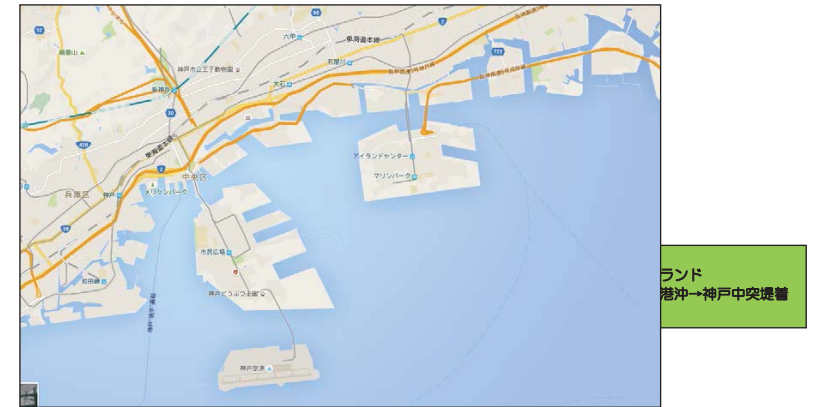
①神戸市立大池小学校	5年生	52名
南あわじ市立倭文小学校	5年生	17名
南あわじ市立湊小学校	5年生	8名
南あわじ市立市小学校	5年生	32名
南あわじ市立三原志知小学校	5年生	1名

②昨年度、「海の大切さや魅力を発信するリーダー養成セミナー」に参加した大学生をリーダーとして招聘(約5名~10名)

4. 神戸港内クルーズコース



神戸港クルーズコース詳細



神戸港



ポートアイランド



六甲アイランド



明石大橋



神戸空港



ポートアイランドの荷役風景  
(ポートアイランド東側)



六甲アイランドフェリーベース  
(六甲アイランド東側)





## 5. 当日の行程

### 南あわじ市小学校

08:00 南あわじ市小学校集合  
 ・受付 名簿チェック  
 ・バスで神戸中突堤へ(2台)

09:50 神戸中突堤着

### 神戸市小学校

09:00 神戸市小学校集合 受付(学校の所在地により時間を調整)  
 ・バスで神戸中突堤へ(2台)

09:50 神戸中突堤着

### 合同

10:00 神戸港クルーズ  
 ~11:30

11:30 神戸中突堤帰港

11:45 神戸海洋博物館(合同)  
 ・オリエンテーション(ホール)

12:05 昼食(神戸海洋博物館ホール)  
 ~12:35

12:35 神戸海洋博物館見学  
 ~13:35

13:35 両校交流(神戸海洋博物館ホール)  
 14:35

14:40 神戸海洋博物館発  
 ・神戸市及び南あわじ市小学生は、貸切バスでそれぞれの小学校へ移動

15:10頃 神戸市小学校着(解散)

16:00頃 南あわじ市小学校着(解散)

## 【実施体制】

### (1) 実行委員会

- ①名称：「海学び舎」あらかると実行委員会(既設)
- ②実行委員  
 大阪港振興協会、神戸港振興協会、近畿旅客船協会、神戸旅客船協会、  
 近畿内航船員対策協議会、大阪市港湾局、神戸市みなと総局、  
 大阪市港区役所、(株)ラジオ関西、関西交通経済研究センター
- ③事務局：関西交通経済研究センター
- ④後援  
 近畿運輸局、神戸運輸監理部、大阪市教育委員会  
 神戸市教育委員会、南あわじ市教育委員会

### (2) 分科会

- ①大阪分科会メンバー  
 大阪港振興協会、近畿旅客船協会、近畿内航船員対策協議会、  
 大阪市港湾局、大阪市港区役所、(株)ラジオ関西、大阪水上バス(株)  
 近畿運輸局
- ②神戸分科会メンバー  
 神戸港振興協会、神戸旅客船協会、神戸市みなと総局、神戸運輸監理部  
 南あわじ市教育委員会、(株)ラジオ関西、神戸バイクルーズ(株)

## 【スケジュール】

### 2016年度

実行委員会等	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
第1回「海学び舎」あらかると実行委員会		○						
第1回大阪分科会		○						
第1回神戸分科会		○						
大阪事業実施			○7月7日					
神戸事業実施			○7月1日					
第2回大阪分科会					○			
第2回神戸分科会					○			
第2回「海学び舎」あらかると実行委員会					○			
報告書作成						○		
第3回「海学び舎」あらかると実行委員会								○

## 【事業成果物】

- 「海学び舎」あらかると啓発事業レポート(報告書)
- ・内容 実施概要、上記の絵手紙、写真と次年度、次々年度に向けた定着アクションプラン
  - ・報告書 A4版約50ページ、CD等